

# SYLLABUS

平成 26 (2014) 年度

■ 保健科学部 看護学科 ■

(1・2 学年用)

看護学科 教育課程 (1・2学年)

【平成26年度】

区分	授業科目		単位数		年間 コマ 数	履修方法 及び 卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目群	発達・行動・心理	1	心理学	2		15		15						榎本 光邦	榎本 光邦	
		2	生命倫理	2		15		15						吉田 幸恵 他	吉田 幸恵	
		3	教育学	2		15		15						高野 利雄	高野 利雄	
		4	教育情報論		2	15		15						西谷 泉	西谷 泉	
		5	教育心理学		2	15		15						原 芳典	原 芳典	
		6	医療民俗学		2	15		15						板橋 春夫	板橋 春夫	
		7	健康スポーツ理論		2	15		15						鈴木 聡子	鈴木 聡子	
		8	健康スポーツ実技		1	15		15						鈴木聡子・衣川隆	鈴木 聡子	
	言語と文化	9	英語 I	1		15		15						杉田 雅子	杉田 雅子	
		10	英語 II	1		15		15						杉田 雅子	杉田 雅子	
		11	英語表現		1	15		15						柴山森二郎	柴山森二郎	
		12	ステップアップ英語 I		1	15			15					柴山森二郎	柴山森二郎	
		13	ステップアップ英語 II		1	15				15				須川久美子	須川久美子	
			英文講読 I	1		15					15			須川久美子	須川久美子	
			英文講読 II		1	15						15		杉田 雅子	杉田 雅子	
	人と社会・生活	14	中国語		1	15		15						深町 悦子	深町 悦子	
		15	コリア語		1	15		15						青木 順	青木 順	
		16	家族学	1		15		15						坂本 祐子	坂本 祐子	
		17	情報処理	1		15		15						西谷 泉	西谷 泉	
		18	法学 (日本国憲法含む)	2		15		15						斎藤 周	斎藤 周	
		19	環境学		2	15		15						西菌 大実	西菌 大実	
		20	ジェンダー論		2	15		15						坂本 祐子	坂本 祐子	
	基礎教育	21	地域社会学		2	15		15						坂本 祐子	坂本 祐子	
		22	ボランティア活動論		1	15		15						竹澤 泰子 他	竹澤 泰子	
		23	経済学		2	15		15						飯島 正義	飯島 正義	
		24	大学の学び入門	1		15		15						杉田雅子・榎本光邦	杉田 雅子	
		25	生物学基礎	1		15		15						佐藤久美子	佐藤久美子	
		26	数学基礎	1		7.5		7.5						栗田 昌裕	栗田 昌裕	
27		化学基礎	1		7.5		7.5						日置 英彰	日置 英彰		
28		英語基礎	1		7.5		7.5						柴山森二郎	柴山森二郎		
計 (卒業要件)						27										
専門基礎科目群	臨床科目群	29	解剖学 I	2		30		15	15					浅見知市郎	浅見知市郎	
		30	解剖学 II		1	15			15					浅見知市郎	浅見知市郎	
			臨床解剖学		1	7.5					7.5			浅見知市郎	浅見知市郎	
		31	生理学	2		30		15	15					洞口 貴弘	洞口 貴弘	
			臨床生理学		1	7.5					7.5			洞口 貴弘	洞口 貴弘	
		32	生化学		1	15		15						亀子 光明	亀子 光明	
		33	疾病の成り立ち	1		15		15						門傳 剛	門傳 剛	
			臨床病理学		1	7.5					7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕	
		34	免疫・感染症学	1		15			15					高橋 克典	高橋 克典	
		35	薬理学	1		15			15					栗田 昌裕	栗田 昌裕	
			臨床薬理学		1	7.5					7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕	
		36	臨床検査学	1		15			15					小河原はつ江	小河原はつ江	
	地域科目群		緩和医療学		1	7.5					7.5			斎藤(龍)・小林(剛)・大井	斎藤 龍生	
		37	病態栄養学		1	15			15					後藤 香織	後藤 香織	
		38	発達心理学	1		15			15					榎本 光邦	榎本 光邦	
		39	臨床心理学		1	15			15					榎本 光邦	榎本 光邦	
		40	公衆衛生学	2		15		15						石館 敬三	石館 敬三	
		41	疫学		1	15				15				石館 敬三	石館 敬三	
			保健統計		1	15					15			石館 敬三	石館 敬三	
		42	社会福祉・社会保障制度論	1		15			15					矢島正栄・一場美根子	矢島 正栄	
			地域保健行政	2		15				15				矢島・一場 他	矢島 正栄	
43	栄養学(含食品学)	1		15		15						後藤 香織	後藤 香織			
地域科目群	44	歯科保健	1		15			15					豊泉 修	豊泉 修		
	45	チーム医療論		1	15			15					藤田 清貴 他	藤田 清貴		
	46	リハビリテーション概論		1	7.5		7.5						松澤 正	松澤 正		
		救急法		1	15					15			北林司・小池菜穂子	北林 司		
	47	健康管理論		1	15			15					下村洋之助	下村洋之助		
	48	カウンセリング		1	7.5				7.5				榎本 光邦	榎本 光邦		
	49	社会福祉・地域サービス論		1	15				15				金谷 春代	金谷 春代		
計 (卒業要件)						23										

区分	授業科目		単位数		年間 コマ 数	履修方法 及び 卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者	
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	基礎看護学	50	看護学概論Ⅰ	1		7.5		7.5							真砂 涼子	真砂 涼子	
		51	看護学概論Ⅱ	1		15		15								真砂 涼子	真砂 涼子
		52	看護援助学Ⅰ	1		15			15							真砂・上星・馬醫・佐藤	上星 浩子
		53	看護援助学Ⅱ	1		15				15						真砂・上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		54	看護援助学演習Ⅰ	2		30				30						上星・馬醫・佐藤	佐藤 晶子
		55	看護援助学演習Ⅱ	2		30					30					上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		56	看護過程論	2		30				15	15					上星 浩子	上星 浩子
			基礎看護学特論		1	7.5								7.5		真砂 涼子	真砂 涼子
	成人看護学	57	成人看護学総論	1		15		15	(7.5)							牛込三和子 他	牛込三和子
		58	成人看護学Ⅰ	1		15			15							牛込三和子・栗田昌裕	牛込三和子
		59	成人看護学Ⅱ	1		15				15						小谷 和彦	小谷 和彦
		60	成人看護学Ⅲ	1		15				15						牛込三和子 他	牛込三和子
			成人看護学Ⅳ	1		15					15					牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
			成人看護学Ⅴ	1		15					15					酒井美絵子 他	酒井美絵子
			成人看護学演習	1		15					15					酒井・鈴木・萩原・小池	鈴木 珠水
			成人看護学特論		1	7.5								7.5		牛込三和子 他	牛込三和子
	老年看護学	61	老年看護学総論	1		7.5			7.5							伊藤・井本 他	伊藤まゆみ
		62	老年看護学Ⅰ	1		15				15						伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
		63	老年看護学Ⅱ	1		15				15						伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
			老年看護学演習	1		15					15					伊藤・星野・井本	伊藤まゆみ
			老年看護学特論		1	7.5								7.5		伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
	小児看護学	64	小児看護学総論	1		7.5			7.5							二宮 恵美	二宮 恵美
		65	小児看護学Ⅰ	1		15			15							二宮 恵美 他	二宮 恵美
		66	小児看護学Ⅱ	1		15				15						二宮 恵美	二宮 恵美
			小児看護学Ⅲ	1		15					15					二宮恵美・柴崎由佳	二宮 恵美
			小児看護学特論		1	7.5								7.5		二宮 恵美	二宮 恵美
	母性看護学	67	母性看護学総論	1		7.5			7.5							中島・上村 他	中島久美子
		68	母性看護学Ⅰ	1		15				15						早川 有子	早川 有子
			母性看護学Ⅱ	2		30					30					早川・中島・池田 他	中島久美子
			母性看護学特論		1	7.5								7.5		早川 有子	早川 有子
	精神看護学	69	精神看護学総論	1		7.5			7.5							鎌田由美子	鎌田由美子
		70	精神看護学Ⅰ	2		30				30						鎌田由美子 他	鎌田由美子
			精神看護学Ⅱ	1		15					15					鎌田・小林(信) 他	鎌田由美子
			精神看護学特論		1	7.5								7.5		鎌田由美子	鎌田由美子
	統合分野	71	在宅看護概論	1		7.5			7.5							小笠原映子	小笠原映子
		72	在宅看護論Ⅰ	1		15				15						小笠原映子 他	小笠原映子
			在宅看護論Ⅱ	2		30					30					小笠原映子・生須典子	小笠原映子
		73	看護の学び入門	1		7.5		7.5								牛込三和子 他	牛込三和子
			臨床看護管理学	1		7.5							7.5			酒井美絵子	酒井美絵子
			災害看護論	1		7.5						7.5				矢島正栄・矢嶋和江	矢島 正栄
			国際看護論	1		7.5						7.5				辻村 弘美	辻村 弘美
	公衆衛生看護学	74	公衆衛生看護学概論	2		30					30					矢島・中下・齊藤(玲)	矢島 正栄
		75	公衆衛生看護学Ⅰ		2	30					30					小林亜由美・廣田幸子	小林亜由美
			公衆衛生看護学Ⅱ		2	30							30			矢島・小林(亜)・廣田・奥野	小林亜由美
			公衆衛生看護学Ⅲ		1	15						15				廣田幸子・奥野みどり	廣田 幸子
			公衆衛生看護学Ⅳ		2	30						30				小林(亜)・廣田・一場	小林亜由美
		公衆衛生看護管理学		1	7.5							7.5			矢島正栄	矢島 正栄	
助産学		基礎助産学Ⅰ		1	7.5							7.5			早川 有子	早川 有子	
		基礎助産学Ⅱ		1	7.5							7.5			早川有子・横田佳昌	早川 有子	
		基礎助産学Ⅲ		1	7.5							7.5			中島久美子	中島久美子	
		基礎助産学Ⅳ		2	30						15	15			早川有子・中島久美子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅰ		1	7.5							7.5			横田 佳昌	横田 佳昌	
		助産診断技術学Ⅱ		1	7.5							7.5			早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅲ		2	15							15			中島久美子	中島久美子	
		助産診断技術学Ⅳ		1	7.5							7.5			早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅴ		1	7.5							7.5			早川 有子	早川 有子	
		助産診断技術学Ⅵ		2	30							30			早川有子・中島久美子	中島久美子	
	助産管理		2	15							15			大谷美和子	大谷美和子		

必修67単位＋選択科目から9単位以上選択

区分	授業科目		単位数		年間 コマ 数	履修方法 及び 卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者	
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	臨床看護分野	76	基礎看護学実習Ⅰ	1		1w		1w						真砂・上星・馬醫・佐藤	上星 浩子		
		77	基礎看護学実習Ⅱ	2		2w			2w					真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子		
			成人看護学実習Ⅰ	3		3w					3w			牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水		
			成人看護学実習Ⅱ	3		3w					3w			酒井・小池・藤巻	酒井美絵子		
			老年看護学実習	4		4w					4w			伊藤まゆみ・井本由希子	伊藤まゆみ		
			小児看護学実習	2		2w					2w			二宮恵美・柴崎 由佳	二宮 恵美		
			母性看護学実習	2		2w					2w			早川 有子・中島久美子	中島久美子		
			精神看護学実習	2		2w					2w			鎌田由美子	鎌田由美子		
	統合分野		在宅看護実習	2		2w						2w		小笠原映子	小笠原映子		
			総合実習	2		2w						2w		母性、助産、公衆衛生を除く学科教員全員	酒井美絵子		
	公衆衛生看護分野		公衆衛生看護学実習		5	5w						5w		矢島・小林(亜)・廣田・奥野	小林亜由美		
	助産学分野		助産学実習		11	11w						11w		早川 有子・中島久美子	中島久美子		
	研究		看護研究概説	1		15					15			伊藤まゆみ・矢島 正栄	伊藤まゆみ		
			卒業研究		4	60						30	30	母性・助産、公衆衛生看護学を除く学科教員全員	母性・助産、公衆衛生看護学を除く学科教員全員		
	計(卒業要件)						76										
	卒業要件(最低)単位数						126										

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	心理学の各領域に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解し, 国家試験対策の基礎を形成する. 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る. 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し, 自らの専門分野に生かす.		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】発達心理学, 臨床心理学, カウンセリング 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	心理学の歴史と方法	心理学の領域, 心理学史
2	脳と心理学	脳の構造, 脳の働き, 高次脳機能障害
3	心の発達	発達の諸側面, 子どもの発達, 生涯発達心理学
4	感覚と知覚	感覚, 知覚的な体制化, 奥行き知覚と知覚の恒常性, 錯覚, 運動の知覚
5	学習	レスポナント条件づけ, オペラント条件づけ
6	記憶と思考	記憶のしくみ, 記憶の二重貯蔵モデル
7	動機づけと情動	動機づけと欲求, 感情・情動, 表出行動とコミュニケーション
8	性格	類型論, 特性論, 性格検査の信頼性と妥当性
9	対人関係と集団	対人認知, 対人感情, 関係の維持
10	臨床心理学Ⅰ	精神分析(フロイト)
11	臨床心理学Ⅱ	分析心理学(ユング)
12	臨床心理学Ⅲ	来談者中心療法(ロジャース)
13	臨床心理学Ⅳ	心理療法の技法
14	臨床心理学Ⅴ	コラージュ療法の体験
15	臨床心理学Ⅵ	コラージュ療法の理論

教 科 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	吉 田 幸 恵
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・グループワーク・発表	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	生命倫理・医療倫理の概要を、できるだけわかりやすくお話ししたいと思います。講義形式だけではなく、映像資料を適宜参照したり、ワークショップやグループワークなどを実施したりします。		
学 習 到 達 目 標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになることを目指します。		
関 連 科 目	公衆衛生学、免疫・感染症学、緩和医療学など。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業後に実施するミニレポートの提出・出席(30%)、グループワークでの発表(30%)、期末レポート(40%)などによる総合評価。		
準 備 学 習 の 内 容	授業の前後において、可能な範囲で、教科書や参考書の該当箇所に目を通してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業のイントロダクション、「生命倫理」の誕生1	授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷
2	「生命倫理」の誕生2	生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷(続き)
3	戦争と生命倫理	戦争と倫理の問題について(日本とナチスドイツを中心に)
4	「病い」を生きる	ハンセン病史における倫理的問題
5	被験者になるということ	医学研究におけるインフォームド・コンセント
6	臓器移植をめぐる諸問題	臓器移植の歴史、臓器移植と法
7	出生前診断と生殖技術	中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術
8	里子、非嫡出子	子どもの「生きる権利」について考える
9	安楽死／尊厳死	安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について
10	再生医療	ES細胞やiPS細胞を用いた医療はどこまで／どのように可能か
11	前半のまとめ	講義前半のまとめと復習(担当／武藤香織)
12	グループワーク	テーマを受講生から募り、グループワーク
13	プレゼンテーション	グループワーク結果の発表
14	医療の役割	医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから
15	まとめ	授業全体のまとめ、期末レポート相談

教 科 書	『はじめて出会う生命倫理』玉井真理子、大谷いづみ(編)、有斐閣(2011年)、1900円。
参 考 書	『バイオエシックス入門——生命倫理入門』今井道夫、香川知晶(編)、東信堂(第3版:2001年)

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	高 野 利 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、討論	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。		
学 習 到 達 目 標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。		
関 連 科 目	心理学、教育心理学、教育情報論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(60%)、随時の提出物と授業への取り組み(40%)		
準 備 学 習 の 内 容	必要に応じて指示する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	人間の活動としての教育	教育とは何か。人間は教育によって何を達成しようとしているのか。
2	学習権という人権	義務教育、教育の機会均等、子どもの権利条約。
3	教育活動の時と場	人間の成長と発達課題。家庭・学校・社会での教育と学習
4	家庭教育と社会教育	家庭教育と社会教育の実状。子育て支援。
5	学校教育の柱と方法	教科指導と生活指導。指導と援助。
6	指導と評価	指導法と評価法。学習の動機づけ。
7	教育思想①	西洋の教育をたどる。
8	教育思想②	日本の教育をたどる。
9	公立学校と私立学校	教育基本法。建学の精神。
10	学校教育現場の諸問題	いじめ、不登校、学級崩壊。
11	教育の土台となる信頼関係	良好なコミュニケーション。ゴードン・メソッド。
12	援助の教育	学校保健、スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク
13	児童生徒理解	生徒指導と教育相談
14	障害児教育	特別支援教育の考え方と実状
15	まとめ	

教 科 書	使用しない
参 考 書	講義時に紹介する

授 業 科 目 名	教 育 情 報 論	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	情報の収集方法とその諸問題への対処法、倫理的問題への対応などを指導する		
学 習 到 達 目 標	本講義の内容を全員が一定のレベルまで理解し、実践できること		
関 連 科 目	情報処理		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題 15%、発表 15%、平常点 30%、試験 40%で総合して成績を付ける。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	情報とは何か	情報の意味と歴史
2	情報の教育とは何か	情報の教育の意義と歴史
3	情報収集の実習①	情報収集の方法と留意点①
4	情報収集の実習②	情報収集の方法と留意点②
5	情報収集の実習③	情報収集の方法と留意点③
6	情報収集の実習④	情報収集の方法と留意点④
7	情報収集の実習⑤	情報収集の方法と留意点⑤
8	情報収集の実習⑥	情報収集の方法と留意点⑥
9	情報収集の実習⑦	情報収集の方法と留意点⑦
10	情報に関する諸問題への対処①	情報処理の倫理的問題と対処法①
11	情報に関する諸問題への対処②	情報処理の倫理的問題と対処法②
12	情報に関する諸問題への対処③	情報処理の倫理的問題と対処法③
13	情報に関する諸問題への対処④	情報処理の倫理的問題と対処法④
14	情報に関する諸問題への対処⑤	情報処理の倫理的問題と対処法⑤
15	まとめ	全体の総括

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし



授 業 科 目 名	教 育 心 理 学	単 位 認 定 者	原 芳 典
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人と人との関わる教育的出来事(事象)を体験的に振り返り、心理学的に解明・理解する		
学 習 到 達 目 標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する		
関 連 科 目	教育学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(50%)および演習への参加(意見・感想)やレポートなどの平常点(50%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらぬが自分の教育体験をよく想起しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	教育心理学を学ぶ意義	ガイダンス 自らの教育体験を振り返る エクササイズ
2	高校生の心理と発達	様々な発達理論 認知の発達 仲間関係 エクササイズ
3	中学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
4	小学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
5	幼児の心理と発達と家庭教育	認知の発達 家族関係 エクササイズ
6	青年期の心理と課題①	青年期の発達課題 ジェンダー・アイデンティティ エクササイズ
7	青年期の心理と課題②	進路とキャリアカウンセリング エクササイズ
8	教育の実践的諸問題	いじめ 不登校 摂食障害 エクササイズ
9	自己理解	自己と他者 自己評価 自己効力感 エクササイズ
10	性格	類型論と特性論 性格検査 エクササイズ
11	特別支援①	「障害」の定義の変遷 特性とニーズ エクササイズ
12	特別支援②	高機能広汎性発達障害 アスペルガー LD ADHD エクササイズ
13	学校臨床心理学	生活の場としての学校 潜在的カリキュラム 同僚性 エクササイズ
14	保健室	養護教諭と健康相談 アセスメント エクササイズ
15	まとめ	講義のまとめと総括質問受付 エクササイズ(評価のフィードバック)

教 科 書	小山望編「教育心理学～＜エクササイズ＞で学ぶ発達と学習」建帛社 2002年
参 考 書	保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授 業 終 了 時
科 目 の 目 的	誕生から死に至る各種の儀礼と習俗について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	社会生活をしていく上で、必要最小限のしきたりや常識を持つことは大事です。日本人の生命観と現代医療の関わりなど、基礎的な知識を得ることを目標とします。		
関 連 科 目	生命倫理、家族学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(85点)、課題提出(15点)		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を事前の一読してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(1) 俗信と医療文化	①授業の概要と学習の進め方(オリエンテーション)
2		②別れるときに「元気でね」となぜ言うか? («気」の文化)
3		③入院は選べないが退院は選べる?(医療と六曜)
4		④12年後はヒノエウマ。何かが起こる?(丙午俗信と出産)
5		⑤なぜ節分に豆まきをするのか?(医療と俗信)
6	(2) 身体と霊魂の民俗	⑥箸を使うのは日本人だけ?(食事の作法)
7		⑦盲目の旅芸人「瞽女」(映像鑑賞)
8		⑧キラキラネームは就職できない?(現代の名付け事情)
9		⑨名前はどうか付けるか?(名前といのち観)
10	(3) 看取りと死の民俗	⑩たそがれ時はどんな時?(夜の民俗と妖怪)
11		⑪ポックリ死にたい?(高齢社会の民俗)
12		⑫昔、病人をカゴで運んだ(救急搬送と医療)
13		⑬畳の上で死ねないのはヤクザ?(看取りと臨終の民俗)
14		⑭死は誰が判定するの?(死の判定とタマヨビ習俗)
15		⑮人はなぜ死ぬのか?(死の儀礼と民俗)

教 科 書	板橋春夫著『叢書いのちの民俗学3生死』社会評論社、2010年
参 考 書	授業でそのつど紹介する予定。

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	参考書の内容を中心に講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持・増進の方法について考えていく。		
学 習 到 達 目 標	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。		
関 連 科 目	健康スポーツ実技		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	①出席状況(50%) ②ミニレポート(20%) ③期末試験もしくは最終レポート(30%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の出席、ミニレポートの提出が重要。また毎回ノートをとり、講義に関する自分の考えをまとめること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体育、運動、スポーツについて
2	体力について	体力とは何か
3	生命科学の基礎	生命科学の基礎
4	身体の仕組みと運動①	身体の仕組みと運動①
5	身体の仕組みと運動②	身体の仕組みと運動②
6	運動と生活習慣病	生活習慣病と関連する要因
7	身体の発育・発達と運動	子どもの時期の運動・自分の発育発達
8	学生生活と健康	健康を維持・増進するための運動
9	老化、寿命と運動①	老化に伴う身体機能の変化
10	老化、寿命と運動②	老化と運動
11	食事と健康	運動と栄養、体重コントロール、メンタルコントロールについて
12	障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツ、アダプテッドスポーツについて
13	精神の健康	運動、栄養と心理の関わり
14	環境と健康	運動と水分補給、熱中症
15	まとめ	まとめ

教 科 書	使用しない
参 考 書	「スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ」池上晴夫著 朝倉書店 「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 「健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一 監修 杏林書院 等

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	スポーツ実技を実践し、健康管理が出来るような講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康(運動・栄養・休養)の保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送れるようになる。 室内、屋外問わず、軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイル形成が出来るよう工夫できる。1年次教育プログラムの目的とするより豊かで協同的な人間関係と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会とする。		
学 習 到 達 目 標	①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる行動が取れるようになる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身につける。 個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。・次回の授業 内容を調べる(スポーツのルール・技術やトレーニング方法)。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整えること。		
関 連 科 目	健康スポーツ理論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席、態度、意欲、理解度の総合評価(運動能力の優劣での絶対評価は行わない)		
準 備 学 習 の 内 容	グループ分けを行い講義を進めます。仲間とコミュニケーションをとり、お互いの意見を出し合い、協力して進めていけるようにしましょう。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	①高山キャンパス	①オリエンテーション
2	②問屋町キャンパス	②体力測定
3	③高山キャンパス	③ソフトボール①&ダンスⅠ
4	④問屋町キャンパス	④有酸素運動①&バレーボールⅡ
5	⑤高山キャンパス	⑤ソフトボール②&ダンスⅡ
6	⑥問屋町キャンパス	⑥有酸素運動②&バレーボールⅡ
7	⑦高山キャンパス	⑦ソフトボールⅠ &ダンス①
8	⑧問屋町キャンパス	⑧有酸素運動Ⅰ &バレーボール①
9	⑨高山キャンパス	⑨ソフトボールⅡ &ダンス②
10	⑩問屋町キャンパス	⑩有酸素運動Ⅱ &バレーボール②
11	⑪高山キャンパス	⑪フットサル①&トレーニングⅠ
12	⑫問屋町キャンパス	⑫マラニック(オリエンテーリング)
13	⑬高山キャンパス	⑬フットサルⅠ &トレーニング①
14	⑭問屋町キャンパス	⑭体力測定
15	⑮高山キャンパス	⑮まとめ 縄跳び大会

教 科 書	使用しない
参 考 書	「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社

授 業 科 目 名	英 語 I	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力をつける。		
学 習 到 達 目 標	読解力とリスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II 英文講読 I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	前期末試験(90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の本文と単語を予習する。 Conversation: 授業で学習した医療英単語、英語表現を覚え、発音し、書けるようにする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の説明、自己紹介
2	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 1	A Holistic View of Humans Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする
3	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 1	A Holistic View of Humans Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする
4	(Reading) I-1. (Conversation) Unit 2	A Holistic View of Humans Taking Medical History 病歴および健康状態を把握する
5	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 2	Homeostasis, Stress, and Adaptation Taking Medical History 病歴および健康状態を把握する
6	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 3	Homeostasis, Stress, and Adaptation Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする
7	(Reading) I-2. (Conversation) Unit 3	Homeostasis, Stress, and Adaptation Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする
8	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 4	Lifespan Development Taking Vital Signs バイタル・サインを正確に計測する
9	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 4	Lifespan Development Taking Vital Signs バイタル・サインを正確に計測する
10	(Reading) I-3. (Conversation) Unit 5	Lifespan Development Taking Specimens 検体を採取する
11	(Reading) I-4. (Conversation) Unit 5	Late Adulthood Taking Specimens 検体を採取する
12	(Reading) I-4. (Conversation) Unit 6	Late Adulthood Taking Medical Examinations 検査の注意や指示をする
13	(Reading) I-4. (Conversation) Unit 6	Late Adulthood Taking Medical Examinations 検査の注意や指示をする
14	(Reading) ニュース英語 (Conversation) Unit 7	英字新聞の記事を読む Assessing the Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする
15	(Reading) ニュース英語 (Conversation) Unit 7	英字新聞の記事を読む Assessing the Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする

教 科 書	・西村月満、James W. Pagel 他, <i>Health Care Today</i> 『英語で学ぶ医療と健康』朝日出版社、2006年。 ・黛 道子、宮津多美子、杉田雅子他, <i>Caring for People</i> , Cengage Learning, 2014年。
参 考 書	英和辞書、英英辞書

授 業 科 目 名	英 語 II	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の継続と発展。 専門用語語彙力の継続と発展。		
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。 専門用語語彙力の発展。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 I 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II 英文講読 I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	後期末試験(90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の本文と単語を予習する。 Conversation: 授業で学習した医療英単語、英語表現を覚え、発音し、書けるようにする		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(Reading) III-1. (Conversation) Unit 8	The Health Care Team Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスする
2	(Reading) III-1. (Conversation) Unit 8	The Health Care Team Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスする
3	(Reading) III-1. (Conversation) Unit 9	The Health Care Team Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する
4	(Reading) III-2. (Conversation) Unit 9	Communication Skills Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助・援助する
5	(Reading) III-2. (Conversation) Unit 10	Communication Skills Advising on Nutrition and Diet 栄養と食餌についてアドバイスする
6	(Reading) III-2. (Conversation) Unit 10	Communication Skills Advising on Nutrition and Diet 栄養と食餌についてアドバイスする
7	(Reading) IV-2. (Conversation) Unit 11	Vital Signs Caring for Inpatients 入院病棟で患者ケアをする
8	(Reading) IV-2. (Conversation) Unit 11	Vital Signs Caring for Inpatients 入院病棟で患者ケアをする
9	(Reading) IV-2. (Conversation) Unit 12	Vital Signs Coping with Emergencies 緊急事態に対処する
10	(Reading) IV-4. (Conversation) Unit 12	In-hospital Infections Coping with Emergencies 緊急事態に対処する
11	(Reading) IV-4. (Conversation) 様々な英語表現	In-hospital Infections Coffee Break 1,2,3
12	(Reading) IV-4. (Conversation) Skit	In-hospital Infections Skit を作る(グループワーク)
13	(Conversation) Skit	Skit を作る(グループワーク)
14	(Conversation) Skit	Skit を作る(グループワーク)
15	Skit	Skit 発表会

教 科 書	・西村月満、James W. Pagel 他、 <i>Health Care Today</i> 『英語で学ぶ医療と健康』朝日出版社、2006 年。 ・黛 道子、宮津多美子、杉田雅子他、 <i>Caring for People</i> , Cengage Learning, 2014 年。
参 考 書	英和辞書、英英辞書

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	1. 会話、2. 問題練習、3. 語法説明、 4. 小テスト	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	保健医療専門職に求められる国際交流、海外視察、留学などに備えて、TOEIC 受験用の練習教材を利用して、英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの力をつける。		
学 習 到 達 目 標	英語で日常生活に必要な会話ができる、日常使用される英語の文書が読める、英語でメールや手紙などを書くことができる、などの力をつける。		
関 連 科 目	英語基礎、英語 I、英語 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストに添付された CD を使って予習と復習を行う。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction to the lessons	授業の進め方、予習復習の仕方
2	Unit 1 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
3	Unit 2 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
4	Unit 3 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
5	Unit 4 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
6	Unit 5 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
7	Unit 6 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
8	Review	Review では Unit 1-6 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。
9	Unit 7 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
10	Unit 8 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
11	Unit 9 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
12	Unit 10 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
13	Unit 11 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
14	Unit 12 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
15	Review	Review では Unit7-12 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。

教 科 書	書名:Starting on the TOEIC Test (CD 付き) 著者:安浪誠祐、Richard S. Lavin 出版社:朝日出版社 定価:1800 円+税
参 考 書	英英辞典、英和辞典

授 業 科 目 名	ステップアップ英語 I	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	問題演習、語法解説、小テスト	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	保健医療専門職に求められる国際交流、海外視察、留学などに備えて、英語に興味を持ち、英語の学習を継続できる能力を養成する。		
学 習 到 達 目 標	1. 簡単な英語の発表や会話を聞き、質問または意見を述べるができるようになる。 2. 簡単な英文を読んで理解し、また自分でも簡単な英文を書くことができるようになる。		
関 連 科 目	英語基礎、英語 I、英語 II		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	出版社の Homepage から Text の音声ファイルをダウンロードして予習と復習を行う。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	
2	Unit 1. 心身を育む朝食	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
3	Unit 2. 医者にかからなくて済むように Unit 3. 笑いが心身にもたらす影響は	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
4	Unit 4. フランス人はなぜ太らない	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
5	Unit 5. 寿司もわさびも大人気	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
6	Unit 6. 納豆を食べるといいことばかり	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
7	Review	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
8	Unit 7. 急性アルコール中毒にご注意	Unit 1～6 の復習
9	Unit 8. イビキは身体の危ないサイン	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
10	Unit 9. 質の良い睡眠をとるには	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
11	Unit 10. チョコレートの秘めたる力	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
12	Unit 11. どうして加工食品はよくな いか	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
13	Unit 12. 遺伝子組み換え食品の安全性 を問う	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
14	Review	単語の意味、会話の聞き取り、易しい文章を読む、作文などの学習を行う。
15		Unit 7～12 の復習

教 科 書	書名: Better Health for Every Day 「毎日の健康に学ぶ大学総合英語」 出版社: (株)金星堂 定価: 1900 円(税別) ISBN: 978-4-7647-3983-3 C1082
参 考 書	英英辞典、英和辞典



授 業 科 目 名	ステップアップ英語Ⅱ	単 位 認 定 者	須 川 久 美 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力を身につける。		
学 習 到 達 目 標	「食」と「文学作品」を結びつけたテキストを読みながら、食べ物がいかに身体、精神の健康に欠かせないかをバラエティに富んだ内容を通して理解する。慣れてきたら速読できるようにする。		
関 連 科 目	英語科目全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業内小テスト(10%)、期末試験(90%)		
準 備 学 習 の 内 容	各章の文法事項を予習する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	講義内容説明、自己紹介
2	英英辞典の用法 Ch.1	英英辞典の用法(名詞)
3	Ch.1 速読	速読(スキヤニング)
4	英英辞典の用法 Ch.2	英英辞典の用法(動詞)
5	Ch.3	
6	Ch.4 速読	速読(サブタイトルの活用)
7	Ch.5	
8	Ch.6	
9	Ch.7 速読	速読(スキミング)
10	Ch.8	
11	Ch.9	
12	Ch.10	
13	Ch.11 速読	速読(主題をつかむ)
14	Ch.12	
15	Ch.13	

教 科 書	Fiona Wall Minami 他編著、『フィクションにみる食文化』、朝日出版社、2013年
参 考 書	電子辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。		
学 習 到 達 目 標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができるように進めたい。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末に筆記試験を行う。出席率と受講時の学習態度を参考し、総合成績を評価する。 基準は筆記試験の成績が70%、授業の出席率が30%。		
準 備 学 習 の 内 容	前回講義で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストの CD を参考しながら繰り返し練習して欲しい。新しい単語を暗記し、漢字の書く練習と読む練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	第1課 発音の基本	ガイドンス、母音、四声
2	第2課 子音(1)	第1課の復習、子音、第三声
3	第3課 子音(2)	第2課の復習、子音、“不”の変調
4	第4課 鼻母音、“一”の変調	第3課の復習、儿化音、鼻母音
5	数字、発音と四声の復習	第4課の復習、数字、発音の復習(音節表の朗読)
6	声調の組み合わせ、挨拶の言葉	確認テスト、教室用語
7	第5課の学習	文法(述語文、疑問文)、会話
8	第5課の復習、練習	会話の練習、練習問題
9	第6課の学習	第5課の復習、第6課の文法(動詞、量詞)、会話
10	第6課の復習、練習	第6課の復習、会話の練習、練習問題
11	第7課の学習	文法(助詞、助動詞、連動文)、時刻、会話
12	第7課の復習	第7課の復習、会話の練習、練習問題
13	第8課の学習	文法(助詞、前置詞、数量補語)、会話
14	第8課の復習	第8課の復習、会話の練習、練習問題
15	まとめ	第1課から第8課までの復習

教 科 書	楽しく話せる中国語
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	講 義	講義の前後
科 目 の 目 的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回(40%)・期末テスト(60%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の復習をよくすること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	第一課	<p>コリア語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また音楽鑑賞などを通じて、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p>&lt;文字と発音&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルの読み方 基本母音と基本子音の一部</li> <li>・ハングルの読み方 基本子音</li> <li>・ハングルの読み方 基本子音と激音</li> <li>・ハングルの読み方 激音と濃音</li> <li>・ハングルの読み方 合成母音</li> <li>・ハングルの読み方 パッチム</li> <li>・ハングルの読み方まとめ</li> </ul> <p>挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</p> <p>&lt;文法と会話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私は青木です」単語と文法</li> <li>・「私は青木です」文法と会話</li> <li>・「何人家族ですか」単語と文法</li> <li>・「何人家族ですか」文法と会話</li> <li>・「すみません」単語と文法と会話</li> <li>・「どうぞ召し上がってください」単語と文法</li> <li>・「どうぞ召し上がってください」文法と会話</li> <li>・まとめ</li> </ul>
2	第二課	
3	第三課	
4		
5	第四課	
6	第五課	
7	第六課	
8	第七課	
9		
10	第八課	
11		
12	第九課	
13	第十課	
14		
15	まとめ	

教 科 書	講師作成教材使用予定(コピー)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</li> <li>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</li> <li>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</li> </ol>		
関 連 科 目	<b>【関連し合う教養科目】</b> ジェンダー論、地域社会学、法学 <b>【この科目が基盤となる専門科目】</b> 看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、母性看護学総論、公衆衛生看護学概論、在宅看護概論、看護の学び入門		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する(定期試験 70%・平常点と小レポート 30%)。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 個人的機能 社会的機能 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り “夫婦別姓”とはどういう問題か 家庭経済内部の4つの活動とその循環 生活とお金 ワーキングプア 生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活 家族と生活習慣②喫煙、③飲酒 ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮 家庭責任をもつ人の仕事への支援 看護職としての成長と私生活の運営・充実 講義内容の振り返り
2	家族をとらえる(2)	
3	家族の機能(1)	
4	家族の機能(2)	
5	家族のつながり(1)	
6	家族のつながり(2)	
7	家族をめぐる制度	
8	家庭経済(1)	
9	家庭経済(2)	
10	生活習慣(1)	
11	生活習慣(2)	
12	ワーク・ライフ・バランス(1)	
13	ワーク・ライフ・バランス(2)	
14	ワーク・ライフ・バランス(3)	
15	まとめ	

教 科 書	使用しない(随時プリントや資料を配布)
参 考 書	「日本型近代家族」千田有紀(勁草書房)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する
13	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2010」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	法 学 (日 本 国 憲 法 含 む)	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。		
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。		
関 連 科 目	経済学、ジェンダー論、家族学、教育学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論	憲法・法律の役割
2	人権総論	人権とは何か
3	人権各論①	家族と人権
4	人権各論②	労働と人権
5	人権各論③	権利としての教育
6	人権各論④	刑罰と人権
7	人権各論⑤	被疑者・被告人の人権と冤罪
8	人権各論⑥	表現の自由
9	民主主義と政治制度①	民主主義と独裁政治
10	民主主義と政治制度②	参政権と選挙制度
11	民主主義と政治制度③	国民主権と象徴天皇制
12	平和①	15年戦争
13	平和②	原爆投下
14	平和③	憲法9条と自衛隊・在日米軍
15	平和④	海外派兵と改憲論
★	各回の授業内容と順番は変更することがある。	

教 科 書	使用しない
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ -憲法のわかる50話-』岩波ジュニア新書

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(90%)、平常点(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	環境とは	環境問題の範囲と背景
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源、食料生産と環境
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷
5	典型七公害	足尾鉍毒、四大公害病
6	有害物質による環境汚染	イタイイタイ病を事例として
7	水質汚濁(Ⅰ)	水質汚濁の原因、生活排水、BOD
8	水質汚濁(Ⅱ)	水質汚濁の対策、下水と浄化槽、多自然川づくり
9	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、紫外線
10	地球温暖化(Ⅰ)	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策
11	地球温暖化(Ⅱ)	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任
12	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー
13	廃棄物問題	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物
14	循環型社会	3R、熱回収、適正処分
15	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり

教 科 書	使用しない(プリント配布)
参 考 書	「環境白書」環境省編・ぎょうせい

授 業 科 目 名	ジ ェ ン ダ ー 論	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える		
学 習 到 達 目 標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.従来の社会慣習、社会通念にどのような問題があったのかが理解できる 3.性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4.性別を帯びた存在として社会人・生活者・市民となっていく自身の生き方をより具体的に考えることができる		
関 連 科 目	【関連する教養科目】家族学、法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、ミニツッペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点7:平常点3を目安とする。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ジェンダー、戦後日本社会のジェンダー構造	ジェンダーとは 製造装置の回路(2つの性別分業)、一次生産物(社会資源の男性偏在)、二次生産物(女性問題)
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働
3	製造装置を読み解く(2)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働(続)
4	製造装置を読み解く(3)	第2の性別分業:社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、 2つの性別分業の関係
5	生産物次元の問題(1)	一次生産物:経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物:女性問題—女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物:女性問題—女性に対する暴力を例に DV(1)
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物:女性問題—女性に対する暴力を例に DV(2)
8	生産物次元の問題(4)	ハラスメント
9	子育てとジェンダー	子育てに係る能力に男女差はあるのか?
10	児童虐待(1)	児童虐待の定義、種類、問題
11	児童虐待(2)	児童虐待の実態
12	児童虐待(3)	児童虐待の防止・対応
13	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)
14	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(プリントによる)
参 考 書	内閣府「男女共同参画白書 平成26年度版」



授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。		
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 心理学、家族学、ボランティア活動論、環境学、経済学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】 精神看護学総論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する(定期試験70%・平常点と小レポート30%)。		
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)①
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)②
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)③
6	地域と家族(1)	近代家族の誕生、労働環境の変化と家族
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価 新しい公共
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	使用しない(必要に応じて随時、レジュメや資料を配布する)
参 考 書	「地域の社会学」森岡清志編(有斐閣アルマ)

授 業 科 目 名	ボランテ ィア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 実践	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。		
学 習 到 達 目 標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート(60%)。毎時間講義内容に対する意見提出に対する評価(40%)。		
準 備 学 習 の 内 容	自分の意見や考え方を表現出来るようにしておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国) 現在行っているNPO法人の活動について
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論
4	ボランティア活動の経験談	足利市市民活動センター長 鈴木光尚氏
5	ボランティア活動の経験談	アトランタパラリンピック 銅メダリスト 塚本京子氏
6	ボランティア活動の経験談	坂本侃氏
7	ボランティア活動のプレゼンテーション、 調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。学生同志発表を採点する。質疑応答
8	同上	同上
9	プレゼンテーション開始	各グループで調査しまとめたことを発表する
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	ボランティアについて 講義全体のまとめ	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導
15	まとめ	レポート提出

教 科 書	使用しない
参 考 書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ 1 福祉の心 2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター、 5 命のあかりを求めて 旬報社

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることになります。		
学 習 到 達 目 標	1. まず経済学の基礎理論をできるようにする 2. その上で、現実の経済問題について理解できるようにする		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点(学習態度、授業中に行う確認等)40%、学期末試験(筆記試験)60%		
準 備 学 習 の 内 容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう一度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価について説明
2	国民経済の仕組み	経済3主体、国民経済の仕組みと租税
3	市場メカニズムとその限界	市場メカニズムとは何か、市場の失敗
4	景気循環	景気の波、日本の「景気指標」を読む
5	物価	物価とは何か、インフレ・デフレと私たちの生活
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗
7	財政・金融政策(1)	財政政策
8	財政・金融政策(2)	金融政策
9	国内総生産(GDP)(1)	国内総生産とは何か、三面等価の原則
10	国内総生産(GDP)(2)	「国民経済計算」のデータを読む
11	経済成長	経済成長とは何か、成長要因は、日本の成長率を確認する
12	貿易・国際収支	比較優位説、国際収支とは何か、「国際収支表」を読む
13	為替レート	為替レートとは何か、為替レートの変動とその影響
14	少子高齢化と社会保障(1)	少子高齢化の経済への影響、年金問題
15	少子高齢化と社会保障(2)	医療問題

教 科 書	使用しない(当日プリントを配布します)
参 考 書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、ワーク	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1.与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ		
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)		
関 連 科 目	全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート(70%)、受講時の意見文・感想文等の平常点(30%)		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	科目の説明、大学生の学習・生活 アカデミック・スキルとスチューデント・スキル(杉田)	科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い
2	インターネットリテラシー(岡部)	アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは インターネット利用のルールとマナー
3	聞く・読む(杉田)	授業を受ける、ノートを取る、本や資料を読む
4	調べる(佐藤司書)	情報を探す
5	考える(杉田)	直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる
6	書く:レポートの書き方1(杉田)	レポートとは何か レポート作成の手順
7	書く:レポートの書き方2(杉田)	論文作法
8	書く:レポートの書き方3(杉田)	レポートの形式
9	自身の課題を見つける(杉田)	前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す
10	相手の話を聴く(榎本)	ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。
11	自分の気持ちや考えを伝える(榎本)	グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。
12	協力して作業する(榎本)	これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する
13	書く:テーマを見つける(杉田)	レポートのテーマを決める
14	書く:レポートを書く(杉田)	レポート作成の実践
15	書く:レポートを書く(杉田)	レポート作成の実践、提出

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講 義 の 前 後
科 目 の 目 的	高等学校で学んだ「生物」の知識を基に専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	以下の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の概要を理解することを目標とする。 1. 生命を支える物質 2. 生命の単位、細胞 3. 生命活動とエネルギー 4. 細胞の増殖と分化 5. 遺伝子の本体と遺伝情報の発現 6. ヒトの遺伝		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の中間試験(35%)・定期試験(50%)・授業への参加度(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回ともシラバスの講義内容に一致する教科書の部分を読み概要を把握しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ∩ 2	ヒトへの進化 教科書 pp.167～ 生命を支える物質 教科書 pp.3～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の誕生と進化、ヒトへの進化</li> <li>・生命現象の特質：一様性、多様性、連続性</li> <li>・水と生命との関わり</li> <li>・タンパク質の構造と機能</li> <li>・炭水化物(糖質)と脂質</li> <li>・核酸の種類と構造</li> <li>・無機質(無機塩類)</li> </ul>
3 ∩ 4	生命の単位 教科書 pp.13～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス</li> <li>・原核細胞</li> <li>・真核細胞の構造</li> <li>・細胞膜の構造と機能、細胞膜を介した物質の輸送</li> <li>・細胞質基質の役割</li> <li>・粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴</li> <li>・ゴルジ体の構造と機能</li> <li>・リソゾームとリソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割</li> <li>・ペルオキシソーム</li> <li>・ミトコンドリアの構造と機能</li> <li>・色素体</li> <li>・細胞骨格の種類とその役割</li> </ul>
5 ∩ 6	生命活動とエネルギー 教科書 pp.73～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の性質や特徴と酵素反応</li> <li>・エネルギー運搬体 ATP</li> <li>・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程</li> <li>・呼吸：生体のエネルギー産生過程とミトコンドリアの役割(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)</li> <li>・産生されるエネルギーの行方</li> </ul>
7	中間試験 (30 分程度)	1回～6回までの講義内容について問う。
7 ∩ 9	細胞の増殖・生殖細胞の形成 教科書 pp.87～ 細胞の分化と幹細胞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞周期の全体像</li> <li>・間期(S 期、G2 期、G1 期)の活動</li> <li>・細胞周期の調節</li> <li>・分裂期 <ul style="list-style-type: none"> <li>体細胞分裂 —染色体の構造、娘細胞への染色体(遺伝子)の分配—</li> <li>減数分裂 —生殖細胞の形成—</li> </ul> </li> </ul>

回	講義題目	講義内容
10 ∫ 12	遺伝のメカニズム 教科書 pp.106～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減数分裂期に起こるキアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義</li> <li>・細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS 細胞</li> <li>・幹細胞の医療分野における応用の可能性</li> <li>・多細胞体の体制維持とアポトーシス</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の連続性を担う本体、DNA の複製</li> <li>・DNAに組み込まれている遺伝情報</li> <li>・遺伝情報発現の詳細</li> <li>・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール</li> <li>・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール 特定の時期(環境)に特定 の遺伝子が発現する機構(あるいは発現しない機構)</li> <li>・性染色体の不活化</li> <li>・生体に備わっている DNA 修復機構 放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等による DNA の損傷機構や損傷によって引き起こされる影響</li> </ul>
13 ∫ 15	ヒトの遺伝 教科書 pp.116～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの遺伝子と染色体</li> <li>・メンデルの法則とヒトの遺伝</li> <li>・家系図の表し方</li> <li>・常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病</li> <li>・伴性遺伝病</li> <li>・ミトコンドリア病、多因子遺伝病</li> <li>・保因者・患者の出現頻度</li> <li>・染色体とその異常</li> <li>・先天異常とその発症要因</li> </ul>

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ版 大学生物学の教科書 1-3 巻 D.サダヴァ他著 ブルーボックス【講談社】</li> <li>・はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 【羊土社】</li> <li>・高校生物補助教材:生物図録【数研出版】、総合図説生物【第一学習社】 とってもやさしい生物基礎【旺文社】</li> </ul>

授 業 科 目 名	数 学 基 礎	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。	オ フィ ス ・ ア ロ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。		
学 習 到 達 目 標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとして渡すプリントにある例題をそのつど復習して、次回の講義の前提となる基礎力を確実に得ておくことが準備学習である。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	日 置 英 彰
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基礎を習得する。		
学 習 到 達 目 標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。		
関 連 科 目	生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%), 受講状況(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	化学の立場から医療を考える	歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。
2	共有結合化合物と有機分子	生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異的な形、一般的な性質について解説する。
3	有機化合物各論	アルコール、エーテル、カルボン酸、アミン等の性質について解説する。
4	生体を構成する有機化合物	糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。
5	水の性質と物質の状態変化	ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態(気体、液体、固体)について解説する
6	酸と塩基	酸、塩基、緩衝液について解説する。
7	酸化と還元	物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる

教 科 書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人
参 考 書	特になし



授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	文法の説明、文型練習、発音練習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	英語の文法で学生の理解が不足している部分を復習する。		
学 習 到 達 目 標	語順と文型、動詞の時制、準動詞、句と節の用法などを理解する。		
関 連 科 目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語表現		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業の課題・小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとプリントの予習と復習をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Unit 1, 2, 3	be 動詞、一般動詞、未来形
2	Unit 4, 5, 6	助動詞、冠詞、代名詞
3	Unit 7, 8	前置詞、接続詞
4	Unit 9, 10	比較、進行形、
5	Unit11, 12	to 不定詞、動名詞
6	Unit13, 14	受動態、現在完了
7	Unit15, 16	関係詞、仮定法
8	Review	まとめ

教 科 書	書名:Simply Grammar 著者:斎藤喜久志、城一道子 発行所:南雲堂 定価:1800 円+税
参 考 書	英英辞典、英和辞典、和英辞書

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	在室時随時
科 目 の 目 的	看護学を学ぶにあたって必要な人体の構造の基本を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な構造を説明できる。基本的な解剖学用語を知っている。		
関 連 科 目	解剖学Ⅱ、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点20% 試験80%		
準 備 学 習 の 内 容	膨大な学習内容です。必ずシラバスに沿って教科書を読んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	解剖学とは何か 器官とその系統 組織と細胞(上皮組織、支持組織)
2	人体のあらまし	組織と細胞(筋組織、神経組織) 人体の外形と方向用語
3	骨格系	骨学総論
4	骨格系	頭部の骨
5	骨格系	脊柱 胸郭 上肢の骨
6	骨格系	下肢の骨格
7	筋系	筋学総論 頭頸部の筋
8	筋系	体幹の筋
9	筋系	上肢・下肢の筋
10	脈管系	血管総論 心臓
11	脈管系	動脈系
12	脈管系	静脈系 胎生期の循環 リンパ系
13	脈管系	リンパ系器官 血液・血球・造血組織
14	内臓	消化器総論 口腔
15	内臓	咽頭 食道 胃 腸
16	内臓	肝臓 胆嚢 膵臓
17	内臓	呼吸器総論 鼻腔 副鼻腔 咽頭 喉頭 気管と気管支
18	内臓	肺
19	内臓	泌尿器系
20	内臓	男性生殖器
21	内臓	女性生殖器 腹膜
22	内臓	内分泌系
23	神経系	神経系総論 脊髄
24	神経系	延髄 橋 小脳 中脳 間脳
25	神経系	大脳
26	神経系	脳室と脳脊髄液 脳神経
27	神経系	脊髄神経
28	神経系	自律神経 伝導路
29	感覚器系	視覚器
30	感覚器系	平衡聴覚器 皮膚

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	在室時随時
科 目 の 目 的	人体を構成する組織・発生について基本的な事項を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の構造を肉眼的のみならず組織発生的にも説明できる。		
関 連 科 目	解剖学 I 生理学 生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験80% 平常点20%		
準 備 学 習 の 内 容	非常に高度な内容を含んでいます。理解するためにシラバスに沿って教科書を読んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発生学のあらまし	受精から着床へ 発生第2週と第3週
2	発生学のあらまし	胎生第4週から第8週 胎生第3月から出生まで
3	細胞	細胞の構造
4	細胞	細胞の活動 細胞の一生
5	上皮組織	上皮組織の特徴 分類 腺
6	支持組織	結合組織
7	支持組織	軟骨組織 骨組織
8	筋組織	骨格筋組織 心筋組織 平滑筋組織
9	神経組織	神経細胞 神経線維 シナプス
10	神経組織	神経膠細胞 末梢神経の支持細胞
11	循環系	血管
12	循環系	血液 骨髄
13	循環系	リンパ
14	消化器系	口腔 歯 歯周組織 咽頭 食道 胃
15	消化器系	小腸 大腸 肝・胆・膵

教 科 書	入門組織学 牛木辰男 南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 18:00～19:00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義題目毎に小テストを行う。 前期小テストの平均点×0.6+前期期末試験の点数×0.4 で前期の最終的な評価を決定する。 後期小テストの平均点×0.6+後期期末試験の点数×0.4 で後期の最終的な評価を決定する。 前期の最終的な評価と後期の最終的な評価の平均点を 本科目の最終的な評価とする		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達
3		
4	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮
5		
6	神経系の機能	末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節
7		
8		
9		
10	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム
11		
12		
13		
14	睡眠・記憶・情動	脳の高次機能
15		
16	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
17		
18	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能
19		
20	消化と吸収	消化管の基本構造と機能、調節
21		
22		
23	血液の生理学	血液の組成とその機能
24		
25	循環の生理学	心臓血管系の基本構造と機能、調節
26		
27		
28	尿の生成と排泄および体液とその調節	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み
29		体温の意義とその調節メカニズム
30	体温とその調節	

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店) 「はじめの一歩のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	亀 子 光 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	教科書, 資料. PowerPoint などを用いて指導する.	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後. 事前の連絡により随時対応する(kameko@paz.ac.jp).
科 目 の 目 的	生体構成成分であるタンパク質、糖質、脂質、核酸、また、細胞、酵素、ビタミン、電解質等についても学習し、臨床現場で必要となる生化学の基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	体の構造と機能を十分に理解し、生体がどのように維持されているかを理解する。		
関 連 科 目	化学基礎、生物学基礎、栄養学、薬理学、生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(70%), ミニテスト5回(25%), 出席点(5%)		
準 備 学 習 の 内 容	教科書および配布資料の目を通しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生化学入門	生体を構成する基礎的な元素, 分子を理解し, 生化学の基礎を解説する.
2	代謝総論・細胞の基礎	代謝(異化と同化)について解説し, 細胞の構造とその機能を学ぶ.
3	生体成分の構造と機能	糖質
4		脂質
5		タンパク質
6		核酸
7		ビタミン
8	酵素	酵素の種類とその機能について学び, 臨床検査で用いられる酵素の測定意義について学習する.
9	各生体成分の代謝	糖質
10		脂質
11		タンパク質
12		核酸
13	ホルモン	ホルモンの分類とその機能, ホルモンを産生する組織や器官について学習し, ホルモンの作用機序や疾患との関係についても学ぶ.
14	電解質	ナトリウム, カリウム, クロールに代表される電解質の機能を学ぶ.
15	遺伝情報・免疫	複製, 転写, 翻訳などの遺伝情報について学習し, 遺伝情報に基づいた疾病や治療について学ぶ. また, 生体防御に関係する免疫調節機能についても学ぶ.

教 科 書	ナーシング・グラフィカ 人体と構造と機能② 臨床生化学 宮澤恵二 編(株式会社メディカ出版)
参 考 書	栄養科学イラストレイテッド 生化学 改定第2版 菌田 勝 編(羊土社) 人体の構造と機能 第2版 エイレン N. マリープ著 (医学書院)

授 業 科 目 名	疾 病 の 成 り 立 ち	単 位 認 定 者	門 傳 剛
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容を明記したプリントを配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応。
4	代謝異常 2	細胞障害の結果としての物質沈着、脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患。
5	代謝異常 3	糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。
6	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。
7	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。
8	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。
9	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。
10	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。
11	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。
12	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因。
13	腫瘍 3	がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。
14	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。
15	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。

教 科 書	使用しない
参 考 書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進[1]」(医学書院)

授 業 科 目 名	免 疫 ・ 感 染 症 学	単 位 認 定 者	高 橋 克 典
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書、資料、スライドなどを用いて指導する	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。また、細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など、臨床現場で必要となる感染知識を身に着ける。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。</li> <li>2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。</li> <li>3. アレルギーの種類と特徴を理解する。</li> <li>4. 感染症の特徴と感染対策法を理解する。</li> <li>5. 主な細菌感染症について理解する。</li> <li>6. 主なウイルス感染症について理解する。</li> <li>7. 輸血のリスクについて理解する。</li> </ol>		
関 連 科 目	生理学・疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(85%)出席点(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	事前に配布する資料に目を通しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	免疫学総論	免疫の概念、自己と非自己を識別する仕組み
2	生体防御システム概論Ⅰ ～ 自然免疫と獲得免疫 ～	自然免疫と獲得免疫の違いおよびそのメカニズム
3	生体防御システム概論Ⅱ ～ 細胞性免疫と液性免疫 ～	リンパ球、マクロファージといった免疫細胞による細胞性免疫と抗体を中心とした液性免疫による生体防御機構の特徴や違い
4	感染症総論 ～ 感染経路と感染対策 ～	感染症の定義、感染経路、院内感染対策法
5	細菌感染症概論	細菌の分類や特徴、抗菌薬の種類、薬剤耐性メカニズム
6	細菌感染症各論Ⅰ	食中毒の原因菌
7	細菌感染症各論Ⅱ	院内感染および性感染の原因菌
8	ウイルス感染症概論	ウイルスの分類や特徴、抗ウイルス薬、風邪症候群
9	ウイルス感染症各論Ⅰ	食中毒、院内感染、日和見感染の原因ウイルス
10	ウイルス感染症各論Ⅱ	肝炎ウイルス、ウイルス性出血熱、HIV
11	免疫異常Ⅰ	免疫不全症の分類と特徴
12	免疫異常Ⅱ	アレルギーの分類・特徴と発生メカニズム
13	免疫異常Ⅲ	免疫寛容と自己免疫疾患
14		
15	輸血と免疫	血液型と不適合輸血、輸血検査、輸血感染

教 科 書	「病気が見える⑥ 免疫・膠原病・感染症」(メディックメディア)
参 考 書	「わかる!身につく! 病原体・感染・免疫」(南山堂) 「シンプル免疫学」中島 泉, 他 (南江堂)

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容をプリントに記入して配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	医療の中で投薬(服薬、注射、輸液、外用など)の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。 2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。 4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。		
関 連 科 目	生理学 生化学 疾病の成り立ち 小児看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。 投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬、麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬、抗痙攣薬(抗てんかん薬)、 筋弛緩薬、抗パーキンソン薬。
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬、オータコイドの種類とその作用、プロスタグランディンの臨床応用。
5	強心薬、抗狭心症薬と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法、ジギタリスの副作用とその対策、抗狭心症薬、抗不整脈薬。
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬、利尿薬の臨床的応用。 降圧薬、抗動脈硬化薬。
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬、駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬、 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬、止血薬、抗血栓療法薬。 開発と化学療法、副作用と組み合わせ。
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬、抗ウイルス剤、免疫について、免疫療法。
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法、消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬、抗結核薬。



回	講 義 題 目	講 義 内 容
11	皮膚疾患に用いられる薬剤.	皮膚疾患に用いられる薬剤.
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	造影剤. 放射性医薬品. ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤
14	小児・妊婦・高齢者に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 高齢者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.
15	薬剤の安定性:保存および混合の問題 点. まとめ.	薬剤の保存. 薬剤の混合、配合変化(配合禁忌).

教 科 書	使用しない
参 考 書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 河 原 は つ 江
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 : 16:30 ~ 19:00
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎知識を学習する。		
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。		
関 連 科 目	解剖学(人体構造)、生理学(人体機能)を含む各臨床科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(筆記)80%、ミニテスト20%		
準 備 学 習 の 内 容	復習を怠らないこと。講義の理解度を確認するため小テストを毎回実施する。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床検査とその役割 臨床検査の流れと医療スタッフの役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割について解説する。
2	一般検査(1)	検体の取り扱い方、尿及び便検査の説明
3	一般検査(2)	脳脊髄液、その他の体液検査の説明
4	血液検査(1)	血沈(赤沈)、血球、血液像の説明
5	血液検査(2)	出血、凝固検査の説明
6	化学検査(1)	血清タンパク、酵素、糖代謝検査の説明
7	化学検査(2)	脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等の説明
8	免疫血清検査(1)	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫の説明
9	免疫血清検査(2)	免疫グロブリン検査、アレルギー、腫瘍マーカー等の説明
10	内分泌機能検査	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、等の説明
11	微生物検査・寄生虫検査	主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について説明
12	病理検査	細胞診・病理組織検査の説明
13	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査の説明
14	RCPC	症例検討
15	まとめ	まとめ

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行編 (医学書院)
参 考 書	「最新臨床検査のABC」日本医師会編 (医学書院)2007 「臨床検査提要 35版」金井正光編 (金原出版)2008 「検査データの生理的変動 ー原理から実線へー」中甫訳 (医歯薬出版)2004 「臨床検査のガイドライン JSLM2012」日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編、(宇宙堂八木書店)2012

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて(糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など)説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学(解剖学、生理学)に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床栄養学とは	1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する
2	栄養の評価法	1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について
3	疾病と栄養(1)	肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。
4	疾病と栄養(2)	糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。
5	疾病と栄養(3)	糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する
6	疾病と栄養(4)	動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。
7	疾病と栄養(5)	高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。
8	疾病と栄養(6)	骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。

回	講義題目	講義内容
9	疾病と栄養(7)	消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。
10	疾病と栄養(8)	消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。
11	疾病と栄養(9)	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。
13	疾病と栄養(11)	1) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について
14	疾病と栄養(12)	1) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。
15	まとめ	

教科書	「エッセンシャル 臨床栄養学」佐藤和人他 著(医歯薬出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。		
関 連 科 目	【教養科目】教育学、心理学、生命倫理、教育心理学、健康スポーツ理論、大学の学び入門、ジェンダー論 【専門基礎科目】臨床心理学、カウンセリング 【専門科目】成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ、小児看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論、災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴、性に関する問題
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自己概念形成(自分探し)に焦点を当てて考察する
9	青年期の精神障害(1)	対人恐怖・社会恐怖等
10	青年期の精神障害(2)	摂食障害・スチューデントアパシー等
11	発達障害	自閉症スペクトラム障害、AD/HD・LDの特徴と支援について
12	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など
13	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について
14	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化、死のとりえ方等
15	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する

教 科 書	岡堂哲雄編(2003)「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」金子書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	臨床心理学の基礎について理解し, 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する.		
学 習 到 達 目 標	臨床心理学の基礎について理解し, 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である. また, 看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す.		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 心理学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】発達心理学, カウンセリング 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する.		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする.		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	臨床心理学とは	臨床心理学という学問が何を目指しているか
2	臨床心理学の歴史	臨床心理学がどのようにして生まれたか
3	臨床心理学の理論	臨床心理学の様々な理論が, 何の役に立つか
4	「症状を持つ」とは 1	神経症・躁鬱病について
5	「症状を持つ」とは 2	人格障害・統合失調症について
6	「発達障害・知的障害を持つ」とは	発達障害(自閉症スペクトラム障害・AD/HD・LD)・知的障害の診断と分類, 支援について
7	臨床心理アセスメント 1	臨床心理アセスメントとは何か
8	臨床心理アセスメント 2	風景構成法の体験
9	心理療法 1	心理療法とは何か
10	心理療法 2	精神分析/分析心理学について
11	心理療法 3	来談者中心療法について
12	心理療法 4	行動療法について
13	心理療法 5	認知行動療法について
14	心理療法 6	ゲシュタルト療法・交流分析・短期療法・家族療法等について
15	臨床心理学を自らの専門に活かす	臨床心理学の知見を, 自らの専門にどのように活かしていけばよいか考える

教 科 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房※「心理学」の教科書 伊藤良子編著(2009)「臨床心理学」 ミネルヴァ書房
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。		
関 連 科 目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題
4	同 上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化
7	同 上	年齢調整死亡率の意義
8	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング
9	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法
10	同 上	結核対策、HIV 対策
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防
12	公衆衛生活動例	精神保健対策、介護保険制度
13	同 上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費
15	課題研究発表	指定課題による研究発表

教 科 書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2012/2013版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	疫 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。		
学 習 到 達 目 標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。		
関 連 科 目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	疫学概念・歴史	疫学の目的、対象、方法、歴史的考察
2	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学
3	健康指標、頻度と曝露	疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度
4	疫学研究方法	記述疫学と分析疫学、5WBridge
5	疫学調査方法	後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論
6	疫学調査方法	バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理
7	スクリーニング	敏感度、特異度、陽性反応適中率
8	感染症の疫学	感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則
9	同 上	わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症
10	同 上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒
11	同 上	防疫活動要領、予防接種、1類感染症
12	同 上	結核の動向と対策、HIV ・STD の動向と対策
13	非感染症の疫学	悪性新生物、自殺、母子
14	同 上	生活習慣病
15	同 上	環境保健

教 科 書	基礎からわかる 看護疫学入門 第2版 大木秀一著 医歯薬出版(株)
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会



授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	矢島正栄:月～金曜日 17:00～18:00 一場美根子:講義の前後
科 目 の 目 的	看護師・保健師・助産師の業務と関連の深い社会福祉、社会保障の法令、制度を理解し、変化する社会情勢の中で人々の健康と生活を支援するため社会資源の公平な利用と配分を促進する方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 社会保障制度、社会福祉の概念と歴史的変遷を説明できる。 2. 医療保障、所得保障、介護保障、公的扶助、障害者福祉に関する主な法令、諸制度の概要を説明できる。 3. 社会資源の公平な利用と配分を促進する看護職の役割を考えることができる。		
関 連 科 目	法学、地域社会学、経済学、地域保健行政、地域福祉・地域サービス論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(90%)、平常点(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキスト、配布資料を読んで授業に臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度、社会福祉の概念、行財政の仕組み
2	社会福祉の歴史	我が国における社会保障制度、社会福祉の歴史的変遷
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	戦後の我が国の社会保障制度の展開と課題
4	医療保障と所得保障1	医療保障と所得保障の理念、関係法令・制度、看護対象者の医療保障・所得保障の課題と支援方法
5	医療保障と所得保障2	〃
6	医療保障と所得保障3(労働法規を含む)	〃
7	介護保障1	介護保障の理念、関係法令・制度、看護対象者の介護保障の課題と支援方法
8	介護保障2	〃
9	介護保障3	〃
10	公的扶助	公的扶助に関する法令・制度、看護対象者の公的扶助の課題と支援方法
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策の仕組み
12	障害者福祉1	知的・身体障害者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策
13	障害者福祉2	発達障害・難病の福祉に関する法令・制度、発達障害者・難病の支援施策
14	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉に関する法令・制度、児童・家庭福祉施策
15	地域における社会福祉の展開と保健医療福祉システム	地域における保健医療福祉システム事例の考察

教 科 書	1. 「標準保健師講座 別巻1 保健 医療福祉行政論」(医学書院) 2. 「国民衛生の動向 2013/2014」(厚生統計協会)
参 考 書	1. 「医療六法」(中央法規) 2. 「福祉省六法」(中央法規)

授 業 科 目 名	栄 養 学 ( 含 食 品 学 )	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学(解剖学、生理学、生化学)に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。		
関 連 科 目	① 解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	解剖学、生理学をよく学んでおく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	栄養学の目的 1	食と私たち 食育の必要性
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	栄養素の種類と体内での主たる役割 一日のエネルギーを求める
3	栄養素の科学 1	糖質の消化
4	〃 2	糖質の代謝
5	〃 3	タンパク質の構造、消化、代謝
6	〃 4	脂質の構造と種類
7	〃 5	脂質の消化と代謝
8	〃 6	電解質とビタミン
9	〃 7	核酸の消化吸収代謝
10	おいしさの科学 1	嗅覚と食品
11	〃 2	色と味
12	〃 3	咀嚼とテクスチャー
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方
15	まとめ	

教 科 書	新選 食品成分表 三訂版(実教出版)
参 考 書	新体系看護学 人体の構造と機能 2 栄養生化学(メジカルフレンド社) 看護栄養学(医歯薬出版)

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	豊 泉 修
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 歯・口腔並びに主な歯科疾患について説明できる。 2. 対象別の歯科保健の課題について説明できる。		
関 連 科 目	看護学全般		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート70%、授業への参加度30%		
準 備 学 習 の 内 容	シラバスに従い教科書を読んできて下さい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	歯	歯・歯周組織の機能、構造
3	歯	歯・歯周組織の組織学
4	口腔とその周囲の解剖生理	口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺
5	口腔とその周囲の解剖生理	上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節
6	う蝕	う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法
7	歯周病	歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法
8	顎関節症	顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法
9	その他の歯科疾患	口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症
10	母子歯科保健	乳幼児歯科検診について
11	学校歯科保健	学校歯科健診について
12	地域歯科保健	市町村での歯科保健のとりくみ
13	成人歯科保健	成人における歯科疾患の疫学
14	老人歯科保健	高齢者の口腔ケア
15	口腔ケア	口腔ケア実技

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔」 小島愛子ほか (医学書院)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	チ ャーム 医 療 論	単 位 認 定 者	藤 田 清 貴
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ロ ー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
科 目 の 目 的	これから医療人を目指すにあたり、医療連携のための共通認識事柄を学び、それぞれ医療専門職の職務内容や役割などについて理解し、自身の目指す医療職と他職種との関係を学ぶ。また、実際の医療現場でチームを構成するその他の医療スタッフについても学び、どのような専門職があるか、なぜチーム医療の必要性が強く求められるようになったのかなど、医療の現状とともにその重要性を理解し、「卒業後に臨床現場に臨み、相互の連携を見極め協働する多職種連携の構築能力」の育成を図る。		
学 習 到 達 目 標	1. 臨床検査技師の専門性とチーム医療における役割について説明できる。 2. 看護師の専門性とチーム医療における役割について説明できる。 3. 理学療法士の専門性とチーム医療における役割について説明できる。		
関 連 科 目	生命倫理, 大学の学び入門		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート 50%, 授業への取り組み 30%, 受講態度 20%により成績を評価する。採点の基準は 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。また、授業回数の 3 分の 1 以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。		
準 備 学 習 の 内 容	各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション 総論:チーム医療	イントロダクション(授業の進め方), チーム医療とは何か?(藤田)
2	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (1)	臨床検査技師(検体部門)の専門性とチーム医療における役割-1(藤田)
3	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (2)	臨床検査技師(検体部門)の専門性とチーム医療における役割-2(藤田)
4	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (3)	臨床検査技師(生体部門)の専門性とチーム医療における役割-1(小河原)
5	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (4)	臨床検査技師(生体部門)の専門性とチーム医療における役割-2(小河原)
6	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (5)	臨床検査技師(生体部門)の専門性とチーム医療における役割-3(小河原)
7	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (6)	臨床検査技師(栄養・食品部門)の専門性とチーム医療における役割-1(亀子)
8	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (7)	臨床検査技師(栄養・食品部門)の専門性とチーム医療における役割-2(亀子)
9	臨床検査技師の専門性とチーム医療 (8)	臨床検査技師(栄養・食品部門)の専門性とチーム医療における役割-3(亀子)
10	看護師の専門性とチーム医療(1)	看護師の専門性とチーム医療における役割-1(伊藤)
11	看護師の専門性とチーム医療(2)	看護師の専門性とチーム医療における役割-2(伊藤)
12	看護師の専門性とチーム医療(3)	看護師の専門性とチーム医療における役割-3(伊藤)
13	理学療法士の専門性とチーム医療(1)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-1(木村)

回	講 義 題 目	講 義 内 容
14	理学療法士の専門性とチーム医療(2)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-2(木村)
15	理学療法士の専門性とチーム医療(3)	理学療法士の専門性とチーム医療における役割-3(木村)

教 科 書	水本清久, 他: 実践 チーム医療論-実際と教育プログラム-(医歯薬出版)
参 考 書	鷹野和美:チーム医療論(医歯薬出版), その他, 必要に応じて資料を配布する。

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10-13:00 (場所:611 研究室)
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度・出欠状況 20%		
準 備 学 習 の 内 容	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史
2		障害論
3		障害者の心理
4		リハビリテーションの構成
5		医学的リハビリテーション
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方
7		地域リハビリテーション
8		社会的リハビリテーション

教 科 書	使用しない(プリント教材を使用する)
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一(医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一(金原出版)

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	下 村 洋 之 助
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義の前後
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。		
関 連 科 目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%と授業態度 20%で評価		
準 備 学 習 の 内 容	将来の医療人として幅広い知識を修得するよう、新聞・雑誌等参考にしておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	健康とは	健康の定義、健康観、予防医学
2	健康の指標	人口、出生、婚姻、死亡、寿命など
3	健康増進	WHOの定義、わが国の現状
4	生活習慣(1)	栄養・食生活
5	生活習慣(2)	運動、休養、飲酒など
6	疾病予防(1)	生活習慣病、がん
7	疾病予防(2)	循環器疾患、代謝疾患
8	疾病予防(3)	骨・関節疾患、歯科口腔疾患
9	疾病予防(4)	感染症
10	疾病予防(5)	精神疾患(統合失調症、うつ病)
11	健康管理(1)	健康教育、集団検診など
12	健康管理(2)	健康管理の実際
13	健康情報(1)	健康情報
14	健康情報(2)	保健医療情報システム
15	まとめ	健康管理論まとめ

教 科 書	「学生のための健康管理学」 木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著(南山堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著(南江堂)

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習(講義内にて)・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・水・金の昼休み(305 研究室)
科 目 の 目 的	さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	特に精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師として必要な援助的態度を身につける。		
関 連 科 目	【教養科目】教育学, 心理学, 生命倫理, 教育心理学, 健康スポーツ理論, 大学の学び入門, ジェンダー論 【専門基礎科目】発達心理学, 臨床心理学(履修しておくことが望ましい) 【専門科目】成人看護学総論, 老年看護学総論, 小児看護学総論, 母性看護学総論, 精神看護学総論, 小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 母性看護学Ⅰ・Ⅱ, 精神看護学Ⅰ・Ⅱ, 公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ, 小児看護学特論, 母性看護学特論, 精神看護学特論, 災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(レポート形式・80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。 なお、本講義は2年・前期の「臨床心理学」の講義の内容を理解していることを前提に進めるので、本講義を受講するに当たっては「臨床心理学」の講義を受講していることが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	自分自身に対する自分の態度	問題の本質をつかみとる力や人を尊重する力などを向上させる練習をワーク形式で行う
2	他者との関わりに対する自分の態度	信頼感を高める力や協調性を高める力などを向上させる練習をワーク形式で行う
3	自分たち人間を含めてこの世の全てのものの存在を支えている「力」に対する自分の態度	生命の尊厳に触れる力や生命への畏敬を感じ取る力を向上させる練習をワーク形式で行う
4	不安障害／摂食障害	思春期・青年期に発現することが多い不安障害, 摂食障害に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
5	気分障害	近年患者数が激増している気分障害に関する知識を身につけるとともに、病態に応じた支援・治療のあり方について考える
6	統合失調症	統合失調症に関する知識を身につけるとともに、社会復帰にむけた支援・治療のあり方について考える
7	認知症	認知症に関する知識を身につけるとともに、患者やその家族への支援のあり方について考える
8	カウンセリングを自らの専門に活かす	カウンセリングの知見や技能を、将来現場に出た時に、自らの専門領域にどのように活かしていけばよいかを考える

教 科 書	河津芳子・河津雄介著(1995)「エクササイズによる看護のための自己開発」 ナカニシヤ出版
参 考 書	山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房※「心理学」の教科書 伊藤良子編著(2009)「臨床心理学」 ミネルヴァ書房 ※「臨床心理学」の教科書



授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義終了後
科 目 の 目 的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。		
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(70%)に平常点(30%)を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。		
準 備 学 習 の 内 容	前回までの授業の内容を十分理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	福祉の捉え方	福祉とは何か
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について
4	地域福祉の内容と展開	
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する
6	サービスの実際Ⅱ	
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的
15	まとめ	

教 科 書	使用しない
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 I	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 ・ 水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護とは何かについて、多角的な面から考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。		
関 連 科 目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(40%)、課題レポート(50%)、講義に関する意見(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと ナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を読むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護とは(1)	看護の定義と役割を学ぶ。専門職としての看護師について学ぶ。
2	看護とは(2)	看護とは何かについて、実践科学としての看護、看護教育制度、看護実践のための基準の側面から学ぶ。
3	看護とは(3)	ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護の機能や役割を考察する。看護とは何かについて、看護の歴史と今後の課題から学ぶ。
4	健康とは	健康の概念を学ぶ。健康観、健康増進に対する関わりについて学ぶ。
5	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉の概念について学ぶ。保健・医療・福祉システムにおけるサービス提供の場とケア提供について学ぶ。
6	看護とは(4)	看護とは何かについて、看護サービス提供の場、看護組織の側面、看護サービスに対する評価の側面から学ぶ。
7	看護とは(5)	看護援助を行ううえで必要な要素を考察する。
8	まとめ	第1～7回までの総括

教 科 書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイチンゲール著(日本看護協会出版会) 『ナーシング・グラフィカ⑩基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他(編)(メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 ・ 水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護学概論 I および基礎看護学実習 I の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。 3. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護の本質を考える。 4. 看護援助の基本的役割について学習する。		
関 連 科 目	看護学概論 I、基礎看護学実習 I を踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(50%)、課題レポート(40%)、講義に関する意見(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	看護活動の実際	基礎看護学実習 I の体験から、医療のシステム、役割および看護活動の実際について考察する。
3 4	看護の対象について	看護の対象について、統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会、ライフサイクルと健康の側面から学ぶ。また、健康障害を持つ対象について、環境および療養生活に影響する身体的・心理的・社会的側面から学ぶ。
5 6	看護職を取り巻く法的側面	看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規を学ぶ。医療事故における法的責任について考察する。
7 8	看護職を取り巻く倫理的側面	看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性、倫理的課題への対応を学ぶ。医療現場における道徳的ジレンマを学ぶ。
9 10 11	看護実践のための理論的根拠について	看護理論とは何かについて学ぶ。 看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家と主な内容について学ぶ。
12	看護援助の基本的役割について	看護援助の基本役割について、コミュニケーション、教育者およびカウンセラーとしての役割、根拠に基づく援助の側面から学ぶ。
13 14	看護の方法について	看護の方法について、看護過程の展開、基本的看護技術、安全・安楽の技術、看護援助のマネジメントの側面から学ぶ。
15	まとめ	第 1 回～14 回までの総括

教 科 書	『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他(編)(メディカ出版) 『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学－基礎看護技術』志自岐康子他(編)(メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 I	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(80%)、講義に関する意見(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	対象者に適した看護援助 衛生的手洗い 環境整備	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。 看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。 看護援助の基本となる環境整備について学ぶ
2	生活環境 ボディメカニクス	健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。 生活環境の一部である寝床環境を整える方法(シーツ交換)および援助を行う際の動作の基本となるボディメカニクスについて学ぶ。
3	コミュニケーション フィジカルアセスメント(1)	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。 フィジカルアセスメントの基本的視点と生命徴候(バイタルサイン)を含む一般状態をアセスメントする方法を学ぶ。
4	安全・安楽 罨法	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。 対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じて安楽を提供する援助方法(罨法)について学ぶ
5	感染予防	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。
6	活動と運動 休息と睡眠	活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。
7	清潔保持と衣生活(1)	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、寝衣交換)を学ぶ。
8	清潔保持と衣生活(2)	
9	まとめ(1)	第1回～8回の復習を行う。

回	講義題目	講義内容
10	食生活と栄養(1)	食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(食事介助、経管栄養法)を学ぶ。
11	食生活と栄養(2)	
12	フィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
13	フィジカルアセスメント(3)	循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。
14	排泄	排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(床上排泄、導尿、浣腸)を学ぶ。
15	まとめ(2)	第10回～14回の復習を行う。 日常生活援助技術についてのまとめを行う。

教科書	『ナースング・グラフィカ基礎看護学③ー基礎看護技術』志自岐康子他(編)(メディカ出版). 『ナースング・グラフィカ基礎看護学②ーヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他(編)(メディカ出版).
参考書	『写真でわかる基礎看護技術ー基礎的な看護技術を中心に!』吉田みつ子他(監修)(インターメディカ). 『写真でわかる臨床看護技術1ー注射・検査に関する看護技術を中心に!』本庄恵子他(監修)(インターメディカ). 『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント』村上美好他(監修)(インターメディカ).

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 II	単 位 認 定 者	馬 醫 世 志 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解することができる。 2. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメントを理解することができる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解することができる。		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、その他各看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(80%)、課題(20%)および講義参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	該当単元の教科書を事前に読んで理解する		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3	診療に伴う援助技術とは 検査・処置	診療に伴う援助技術における看護師の役割と他職種との連携の必要性を学ぶ。 検査(生体検査、検体検査)・処置の概要と看護師の役割について学ぶ。 ・心電図検査 ・呼吸機能検査 ・尿/便/喀痰検査 ・血液検査 ・ドレッシング法、包帯法
4 5	呼吸管理	呼吸を楽にする技術(吸引、吸入、姿勢・呼吸法)を学ぶ。
6	まとめ①	第1回～5回の復習を行う。
7 8	与薬	薬剤管理における看護師の役割を学ぶ。 薬剤の生体への影響と取り扱い方法を学ぶ。 ・経口与薬 ・注射(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射) ・静脈内注射 ・輸液ポンプ、シリンジポンプ ・外用薬 ・輸血
9 10	フィジカルアセスメント	筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本を学ぶ。
12	統合演習	設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学Ⅰ・Ⅱおよび看護援助学演習Ⅰ・Ⅱで得た知識と技術を統合する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
13	死亡時のケア	<p>死亡時のケアの概要を学ぶ。 看護援助の実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。</p> <p>第7回～14回の復習を行う。 診療に伴う援助技術についてのまとめを行う。</p>
14	看護記録・報告	
15	まとめ②	

教 科 書	志自岐康子他(編)『ナースング・グラフィカ⑱基礎看護学－基礎看護技術』メディカ出版。 松尾ミヨ子他(編)『ナースング・グラフィカ⑰基礎看護学－ヘルスアセスメント』メディカ出版。
参 考 書	吉田みつ子他(監修)『写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に』インターメディカ。 本庄恵子他(監修)『写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！』インターメディカ。 本庄恵子他(監修)『写真でわかる臨床看護技術②－呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！』インターメディカ。 村上美好(監修)『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント－生活者の視点から学ぶ身体診察法』インターメディカ。

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 演 習 I	単 位 認 定 者	佐 藤 晶 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	看護援助学 I における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学 I、解剖学 II、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論 I、看護学概論 II、看護援助学 I		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験(50%)、課題(50%)および演習参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	1. 看護援助学 I での学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	衛生的手洗い	衛生的手洗いの方法を習得する。
2	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ。
3	生活環境	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。
4	ボディメカニクス	ボディメカニクスの原理を体現する。 ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。
5	フィジカルアセスメント(1)	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。
6	コミュニケーション	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。
7	感染予防	基本的な無菌操作(滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い)を習得する。
8	褥瘡	対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(褥瘡)について学ぶ
9	活動と休息	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。
10		床上移動、ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。
11	清潔保持と衣生活	全身清拭、足浴、洗髪、寝衣交換の方法を習得する。
12		
13		
14		
15		
16		
17	まとめ(1)	日常生活援助技術についての実技試験実施。
18	1-16 回の復習	1-16 回を振り返り、臨床での応用を考える。
19	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。
20		健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。
21	フィジカルアセスメント(2) (3)	呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。
22		
23		
24		



回	講 義 題 目	講 義 内 容
25 26	排泄	床上排泄(便器・尿器使用)の援助方法を習得する。 陰部洗浄の援助方法を習得する。
27 28	まとめ(2) 17-26回の復習	バイタルサイン測定と聴診についての実技試験実施。 1-26回を振り返り、知識の整理と臨床での応用を考える。
29 30	導尿 浣腸	導尿法(一時的導尿法、持続的導尿法)を習得する。 浣腸法を習得する。

教科書	志自岐康子他(編)『ナースング・グラフィカ®基礎看護学-基礎看護技術』メディカ出版。 松尾ミヨ子他(編)『ナースング・グラフィカ®基礎看護学-ヘルスアセスメント』メディカ出版。 吉田みつ子他(監修)『写真でわかる基礎看護技術-基礎的な看護技術を中心に!』インターメディカ。 本庄恵子他(監修)『写真でわかる臨床看護技術①-注射・検査に関する看護技術を中心に!』インターメディカ 村上美好他(監修)『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント-生活者の視点から学ぶ身体診察法』インターメディカ
参考書	なし

授 業 科 目 名	看 護 援 助 学 演 習 II	単 位 認 定 者	馬 醫 世 志 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	看護援助学IIにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 診療に伴う基本的な援助技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。		
関 連 科 目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目－主に解剖学I・II、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護の学び入門、看護学概論、看護援助学I、看護援助学演習I、看護援助学II、その他各看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験(50%)、課題(50%)および演習参加状況		
準 備 学 習 の 内 容	1. 看護援助学IIでの学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 3 4	生体検査	生体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・心電図検査 ・呼吸機能検査(スパイロメーター、経費的動脈血酸素飽和度)
5 6	検体検査	検体検査における看護師の役割について理解し、援助方法を習得する。 ・採尿 ・採血
7 8	創傷管理	ドレッシング法、包帯法に関する援助技術を習得する。
9 10	呼吸管理	吸引、吸入、体位ドレナージの援助技術を習得する。
11 12 13 14 15 16 17 18	与薬	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な援助技術を習得する。 ・経口与薬 ・筋肉内注射、皮下注射 ・静脈内注射(翼状針、留置針) ・輸液ポンプ、シリンジポンプ
19 20	まとめ① 1-18回の復習	注射法についての実技試験実施。 1-18回を振り返り、知識を整理する。
21 22 23 24	フィジカルアセスメント	筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。
25 26 27 28	統合演習	設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学演習I・IIで得た知識と技術を統合する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
29 30	まとめ② 21-28回の復習	診療に伴う看護技術についての実技試験実施。 看護援助学演習Ⅱを振り返り、臨床での応用を考える。

教 科 書	志自岐康子他(編)『ナースング・グラフィカ⑱基礎看護学-基礎看護技術』メディカ出版。 松尾ミヨ子他(編)『ナースング・グラフィカ⑰基礎看護学-ヘルスアセスメント』メディカ出版。 吉田みつ子他(監修)『写真でわかる基礎看護技術-基礎的な看護技術を中心に！』インターメディカ。 本庄恵子他(監修)『写真でわかる臨床看護技術①-注射・検査に関する看護技術を中心に！』インターメディカ。 本庄恵子他(監修)『写真でわかる臨床看護技術②-呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！』インターメディカ。 村上美好(監修)『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントー生活者の視点から学ぶ身体診察法』インターメディカ。
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 過 程 論	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習	オ フィ ス ・ ア ワ ー	水曜:12:10~12:50
科 目 の 目 的	看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的に科学的に行っていく技術を習得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる</li> <li>2. 看護過程と看護理論の関係について考える</li> <li>3. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)ができる</li> <li>4. 紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる</li> <li>5. 紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる</li> <li>6. 評価・修正ができる</li> <li>7. 効果的なカンファレンスができる</li> </ol>		
関 連 科 目	専門基礎科目群:解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学 専門科目群:看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	看護過程展開(60%), 筆記試験(40%)および講義・演習の参加度を総合して評価する		
準 備 学 習 の 内 容	事前学習および各回で提示される課題に取り組み授業に臨む		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護過程の概要	看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ
2	看護過程と看護理論	人間、健康・環境・看護の捉え方について学び、看護課程と看護理論の関係について学ぶ
3	情報の整理と解釈	情報収集と情報収集の枠組み、ゴードンの機能面からみた11の健康パターンの類型にそった情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ
4		
5		
6		
7	関連図	収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ
8		
9	看護診断	看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、また看護診断の優先順位の考え方について学ぶ
10	看護計画	計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法(目標設定・計画立案)を導き出す
11	評価	立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ
12	看護記録	看護の実施について POS 方式等による看護記録の書き方を学ぶ
13	カンファレンス	効果的なカンファレンスの方法について学ぶ
14	知識の確認	看護過程の知識を確認し、次回からの演習に臨む
15	演習(事例展開 A)	演習では対象をホリスティックに捉えるために必要な情報について考える。紙上患者事例 A を用いて、情報を分類・整理し、それらの意味を解釈し、全体像を捉え、看護診断を導く(15~17回)
16		
17		

回	講義題目	講義内容
18 19	プレゼンテーション①	看護診断、期待される結果について発表し、各看護診断や目標の共有化・明確化を図る
20	前期のまとめ	実習に向け、看護過程展開における知識の確認や自己の傾向について考える
21	実習における看護過程のまとめ	前期講義や実習における学び、看護過程展開の特徴を振り返る
22 23	演習(事例展開B)(個人)	紙上患者事例Bを用いて看護過程を個人で展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く(22～23回)
24 25 26 27	演習(GW)	個人で抽出した看護診断を各グループで検討し、期待させる結果、計画立案をする(24～27回)
28 29	プレゼンテーション②	看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化・明確化を図る
30	まとめ	看護過程が看護ケアの質を保障し向上させるための、系統的な思考の枠組みであることを確認し、今後の課題を明確にする

教科書	『看護診断ハンドブック』第10版. Carpenito-Moyet, L. J.(著), 新道幸恵(監訳), 医学書院. 『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』第4版. 江川隆子(編), ヌーヴェルヒロカワ.
参考書	『看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント』. 高木永子(監修), 学研. 必要に応じ、随時紹介する.

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。		
関 連 科 目	履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験、レポート		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 成人看護学の概要	導入
2	成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握
3	成人各期の特徴と保健問題	青年期、壮年期、向老期の問題と保健問題
4	成人保健 1	成人保健の動向と対策
5	成人保健 2—生活習慣病の予防 1	生活習慣病対策:糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満
6	成人保健 3—生活習慣病の予防 2	糖尿病を中心に…患者の体験を理解する
7	成人保健 4	成人保健と性、成人保健と労働
8	成人保健 5	環境と健康問題
9	成人の健康障害と看護 1	慢性期にある人の理解 1
10	成人の健康障害と看護 2	慢性期にある人の理解 2
11	成人の健康障害と看護 3	慢性期にある人の理解 3
12	成人の健康障害と看護 4	健康レベル、病期と看護の特徴
13	(酒井美絵子) 成人の健康障害と看護 5 (鈴木珠水)	急性期にある人の看護
14	成人の健康障害と看護 6 (萩原英子)	慢性期にある人の看護
15	成人の健康障害と看護 7	終末期にある人の看護

教 科 書	「新体系看護学 14 成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集(メヂカルフレンド社) 「国民衛生の動向 厚生指標 2013/2014 年版」(厚生統計協会)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。		
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 90%、平常点 10%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	成人看護学の概要 成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握
2	成人各期の特徴と保健問題	青年期の特徴と保健問題、 壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題
3	成人保健 1 生活習慣病の予防 1	生活習慣病対策：糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満 糖尿病を中心に 患者の体験 患者を生きる
4	成人保健 2 生活習慣病 2	がんの動向、がん対策、システム がん対策基本法 がん患者の体験
5	成人保健 3	成人保健と性、成人保健と労働
6	環境と健康問題	環境と健康問題
7	成人期にある人の健康障害と看護 1	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護 1
8	成人期にある人の健康障害と看護 2	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる人々を支える看護 2

教 科 書	「新体系看護学 14 成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集(メヂカルフレンド社) 「国民衛生の動向 厚生指標 2013/2014 年版」(厚生統計協会)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 I	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 成人看護学の概要	
2	(栗田昌裕) 概論 1	
3	概論 2	
4	消化器疾患 1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	消化器疾患 2	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	消化器疾患 3	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	呼吸器疾患 1	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	呼吸器疾患 2	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	呼吸器疾患 3	主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	循環器疾患 1	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	循環器疾患 2	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	循環器疾患 3	主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	血液・造血器疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	神経系疾患 1	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	神経系疾患 2	主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】-【15】(医学書院)
参 考 書	随時紹介する。



授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 II	単 位 認 定 者	小 谷 和 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	1.成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2.機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。		
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・老年看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(未 定) 血液疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療
2	栄養代謝障害 1	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
3	栄養代謝障害 2	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
4	栄養代謝障害 3	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療
5	内分泌疾患	主な内分泌疾患の病態生理、症状、検査、治療
6	腎疾患 1	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
7	腎疾患 2	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療
8	感染症	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療
9	アレルギー・免疫疾患、 膠原病と類縁疾患 1	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
10	アレルギー・免疫疾患、 膠原病と類縁疾患 2	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療
11	泌尿器疾患	主な泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療
12	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療
13	眼疾患	主な眼疾患の病態生理、症状、検査、治療
14	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の病態生理、症状、検査、治療
15	皮膚疾患・歯・口腔疾患	主な皮膚・歯・口腔疾患の病態生理、症状、検査、治療

教 科 書	系統看護学講座【2】-【15】 医学書院 「周手術期看護論」 雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ノーヴェルヒロカワ
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 III	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オフィス・アワー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。		
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100% (各授業中の確認テストも含む)		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学 I、II で学習した内容の復習及び事前に指定教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 臨床看護学総論 1	導入
2	(荒木伸生) 循環器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
3	循環器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
4	循環器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
5	(酒井美絵子) 消化器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
6	消化器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
7	消化器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
8	消化器疾患患者の看護 4	症状・障害と看護、主な疾患と看護 3
9	(及川洋) 感覚器疾患患者の看護	観察とアセスメント、検査・治療と看護、症状・障害と看護、主な疾患と看護
10	(鈴木珠水) 呼吸器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
11	呼吸器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
12	呼吸器疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
13	呼吸器疾患患者の看護 4	症状・障害と看護、主な疾患と看護 3
14	呼吸器疾患患者の看護 5	症状・障害と看護、主な疾患と看護 4
15	(牛込三和子) 臨床看護学総論 2	診断、治療と看護

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】・【3】・【5】・【14】(医学書院) 「周手術期看護論」雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ヌーヴェルヒロカワ
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の9-17時
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。		
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(60%)、レポート(20%)、平常点(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化
4	老化疑似体験①	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
5	老化疑似体験②	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割
8	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院)
参 考 書	「国民衛生の動向 2013/2014」(厚生統計協会)

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 I	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の9-17時
科 目 の 目 的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。		
関 連 科 目	老年看護学総論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(60%)、レポート(25%)、平常点(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化(認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能)
2	高齢者の症候①	不眠、難聴、視力障害
3	高齢者の症候②	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症
4	高齢者の疾患①	認知症
5	高齢者の疾患②	精神・神経疾患(せん妄、うつ病)
6	高齢者の疾患③	精神・神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病)
7	高齢者の疾患④	循環器疾患(虚血性心疾患、心不全)
8	高齢者の疾患⑤	呼吸器疾患(肺炎、閉塞性肺疾患、結核)
9	高齢者の疾患⑥	腎・泌尿器疾患(腎不全、前立腺肥大症)
10	高齢者の疾患⑦	運動器疾患(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆)
11	高齢者の疾患⑧	皮膚・感覚器疾患(皮膚掻痒症、疥癬、白内障)
12	高齢者の疾患⑨	感染症(インフルエンザ、食中毒)
13	高齢者と治療①	高齢者と薬物療法
14	高齢者と治療②	高齢者と手術療法
15	高齢者と治療③	高齢者とリハビリテーション

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(医学書院)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 II	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施曜日の9-17時
科 目 の 目 的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。</li> <li>2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。</li> <li>3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。</li> <li>4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。</li> <li>5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。</li> </ol>		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、基礎看護学、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験(55%)、レポート(30%)、平常点(15%)		
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	健康の維持・増進活動①	食生活、排泄、清潔
2	健康の維持・増進活動②	歩行・移動、活動と休息
3	健康の維持・増進活動③	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ
4	老年期の看護問題①	転倒
5	老年期の看護問題②	摂食・嚥下障害
6	老年期の看護問題③	排尿・排便障害
7	老年期の看護問題④	褥瘡
8	老年期の看護問題⑤	認知症高齢者のケア、成年後見制度
9	老年期の看護問題⑥	事故予防と救急時の対応
10	老年期の看護問題⑦	高齢者の医療安全と災害看護
11	エンド・オブ・ライフケア①	終末期にある高齢者と家族のケア
12	エンド・オブ・ライフケア②	死後の処置
13	高齢者のアセスメント技術①	高齢者とのコミュニケーション技術、健康歴の聴取
14	高齢者のアセスメント技術②	身体機能の評価
15	高齢者のアセスメント技術③	高齢者のフィジカルアセスメント

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(医学書院) 「写真でわかる基礎看護技術」吉田 みつ子(インターメディカ)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	成長発達過程にある子どもと家族の特徴を理解し、次世代を担う子どもと家族の健康問題解決のための方略について考察することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの成長発達が理解できる。 2. 子どもと家族の生活が理解できる。 3. 子どもを育む環境が理解できる。 4. 子どもと家族の健康生活のための方略について考察することができる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%、講義への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、および専門基礎地域科目群と専門基礎臨床科目群(特に発達心理学、栄養学)を復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	小児看護の特徴	小児看護の目指すところ、小児看護の変遷
2	子どもの成長発達 新生児期の成長発達と看護	成長発達の原則、成長発達に影響する要因 新生児期の特徴、新生児期の形態的成長発達 新生児期の機能的発達
3	乳幼児期の成長発達と看護	乳幼児期の特徴と発達課題、乳幼児期の形態的成長発達
4		乳幼児期の機能的発達
5		乳幼児期の心理社会的発達 乳幼児期のセルフケアの発達、乳幼児期によく見られる健康問題
6	学童期、思春期の成長発達と看護	学童・思春期の特徴と発達課題、学童・思春期の形態的成長発達、学童・思春期の機能的発達、学童・思春期の心理社会的発達、学童・思春期のセルフケアの発達、学童・思春期によく見られる健康問題と学校保健
7	子どもと子どものいる家族の生活	乳幼児期の子どもを養育する家族の現状、乳幼児期の子どもを養育する家族の課題と支援
8	子どもを育む環境	わが国の母子保健の現状、わが国の母子保健施策の動向、現代の子どもを取り巻く環境の変化

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 12 版」奈良間美保他著(医学書院)2012.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 I	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	小児期に多く見られる健康障害の特徴と治療法を理解し、成長発達過程に健康障害を受けることによる生涯にわたる影響について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムが理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療が理解できる。 3. キャリーオーバーや成育医療について理解できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%、講義への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)を復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	子どもと病気、子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症、その他の感染症
3 4	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病
5 6	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性・後天性心疾患、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症、子どもの全身麻酔と手術療法
7 8	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、血液疾患
9 10	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	腎・生殖器・生殖器疾患、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症、内分泌疾患
11 12	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患、運動器疾患、染色体異常
13 14	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患	低出生体重児の疾患、倫理的課題、子どもの主な事故・外傷と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD(注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待
15	まとめ	1～14 回講義内容のまとめ

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2011.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 II	単 位 認 定 者	二 宮 恵 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	成長発達過程にある子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によって及ぼされる影響を理解し、子どもに起りやすい健康障害に対する有効な介入方法について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの権利と小児看護の理念について理解できる。 2. 健康障害が子どもと家族に与える影響について理解できる。 3. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解できる。		
関 連 科 目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など)、および専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	小児看護の理念	子どもの人権、子どもの最善の利益、小児看護における倫理、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント 子どもの病気の理解、プレパレーション
3 4 5	プレパレーション演習	グループでテーマに基づいてプレパレーションを計画・作成し、発表する
6 7	健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響	病気や障害に伴う子どものストレス、子どものストレス対処に対する支援 子どもの病気や障害に伴う家族のストレス、病気の子どもと家族のストレスに対する支援
8	外来における子どもと家族の看護	小児外来の種類、一般外来における看護、小児救急外来における看護、トリアージ
9	急性期にある子どもと家族の看護	急性期の特徴、急性期にある子どもと家族への看護
10	救急処置が必要な子どもと家族の看護	発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護
11		けいれん時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護
12		生命兆候が危険な状況のアセスメントと看護、子どもの一次救急救命処置
13	慢性期にある子どもと家族の看護	小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性期の特徴、慢性期にある子どもと家族のエンパワーメントを支援する看護
14	周手術期にある子どもと家族の看護	小児期の手術の特徴(手術の時期と種類)、術前と術後の看護、手術を受ける子どもと家族への看護
15	まとめ	1～14回講義内容のまとめ

教 科 書	1.「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2012.
参 考 書	必要時提示する



授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	中 島 久 美 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業開講日の 12時～13時(中島研究室)
科 目 の 目 的	国内外の母性看護の歴史的変遷と母性看護の現状について学ぶ。 ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。性と生殖に関する理解をする。		
学 習 到 達 目 標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。		
関 連 科 目	教養科目群—生命倫理 家族学 専門基礎科目群—解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母性看護の概念	母性看護学総論オリエンテーション(学習の範囲、学習の視点、基本的知識) 母性(父性)とは、リプロダクティブヘルツ/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシュアリティの概念
2	母性看護の機能と役割	母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望
3	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の歴史と役割、母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策(法律)
4	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器、男性生殖器
5		生殖器の発生とその異常(外性器の異常 性分化異常) 生殖器系の異常(遺伝子・精子・卵子)
		女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化
	生殖周期とホルモン	生殖周期に関わるホルモン(視床下部・下垂体・卵巣ホルモン) 受胎のメカニズム 人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン
	思春期・成熟期の疾患	女性のライフサイクル(思春期・成熟期)における形態・機能の変化 思春期の疾患(月経異常 性器奇形等) 成熟期の疾患(子宮内膜症 生殖器の疾患 感染症等)
6	女性のライフサイクルと健康 (思春期)	女性のライフステージ各期の性と生殖のケア(マタニティを除く) 思春期の男女への支援(思春期のセクシュアリティ発達支援、 二次性徴の早発・遅発ケースへの対応と支援、性障害と性同一性障害) 性感染症(STD) 予防(予防に関する啓発) 人工妊娠中絶の予防と支援
7	女性のライフサイクルと健康 (成熟期・更年期)	成熟期・更年期(老年期)にある女性への支援 性暴力、DV 予防(予防に関する啓発) 家族計画とは
8	母性看護の課題と展望	女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率 在日外国人の母子保健など 現代社会における母性の健康と課題(子ども虐待の背景、親子関係、子育て支援)

教 科 書	「母性看護学Ⅰ 母性看護学概論」森恵美他(医学書院)
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 I	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義(グループワーク含む)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 14 時—15 時(早川研究室)
科 目 の 目 的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。		
関 連 科 目	教養科目群:生命倫理 家族学 環境学 生物学基礎 専門基礎科目群:発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群:この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学・公衆衛生看護学等)		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	母子の健康問題に関連ある因子について、課題を持って講義に臨む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。
2 - 7	母子保健と環境 - 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因:恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因:経済、教育、文化、医療など ・環境的要因:自然環境、人為的環境など ・身体的要因:栄養、喫煙、飲酒など
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。
9 - 13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。 (便秘 痔 貧血 体重管理 乳房等)
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。

教 科 書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子他 著(医学書院)
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 総 論	単 位 認 定 者	鎌 田 由 美 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 16:00～17:00
科 目 の 目 的	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造、人格の発達過程について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 精神の健康とそれに影響を与える要素を知る。 2. 精神の機能と構造を理解する。 3. 人格の成長発達過程を理解する。		
関 連 科 目	「発達心理学」、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)、授業の中で指示した提出課題(20%)によって評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	自分(学生)自身の人格の発達とこころの健康について振り返って考えておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神保健とは	精神の健康の基本的な考え方
2	精神の機能と構造	精神力動論における精神の機能(意識)と構造 フロイトの精神力動論を中心に
3	欲求と防衛機制	人間の欲求、および防衛機制の働きと種類 マズローのニード論、適応機制と防衛機制、感情転移
4	健康な人格とは	健康な人格とその客観的尺度 心理検査の種類と用法を中心に
5	人格の成長と発達	精神および人格の成長発達とその課題 エリクソンの発達課題(乳幼児～青年期)を中心に
6	人間とストレス	ストレスとは何か、またそのコーピング(対処法) ラザルスのストレス対処理論を中心に
7	人間と危機状況	危機理論と危機介入 フィンクモデルとアギユレラの理論を中心に
8	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院)
参 考 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院)

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 I	単 位 認 定 者	鎌 田 由 美 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 16:00～17:00
科 目 の 目 的	精神障害を生物的、心理的、社会・文化的に説明することができ、その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 精神看護の対象を正しく理解できる。 2. 精神医療の歴史を把握し、現代社会における問題や課題を理解できる。 3. 精神の機能とそこに生じる症状を説明できる。 4. 精神障害および精神疾患の種類と特徴を理解できる。 5. 精神に障害をもつ人に必要な看護援助を科学的に説明できる。		
関 連 科 目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅱ」、「心理学」「地域社会学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護過程論」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験(80%)、授業の中で指示した提出課題(20%)によって評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神看護の対象	精神医療および精神看護の対象の理解
2	精神医療・看護の歴史	精神医療と看護の歴史的変遷とその特殊性
3	〃	海外の歴史と日本の歴史
4	精神保健福祉法の概要	精神保健福祉法の概要
5	精神保健福祉法とは	精神科における入院形態、行動制限、権利擁護および障害者自立支援法、医療観察法などの関連法規
6	精神科における人権擁護と看護倫理	精神看護における倫理とインフォームド・コンセント 行動制限(隔離と拘束)を中心に
7	精神の機能と症状	精神の機能および精神症状の種類と特徴
8	〃	〃
9	精神障害の分類	精神障害および疾患の分類(ICD-10とDSMIV)
10	疾患と看護① 統合失調症	統合失調症の特徴と治療およびその看護(幻覚妄想状態と無為自閉、認知障害)
11	〃	〃
12	〃	統合失調症の家族支援
13	疾患と看護② 感情(気分)障害	感情障害(大うつ病と双極性障害を中心に)の特徴と治療およびその看護(うつ状態と躁状態、および自殺企図)
14		
15	疾患と看護③	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、心因反応、解離性障害の特徴と治療およびその看護
16	神経症性障害、ストレス関連性障害	
17	疾患と看護④ 摂食障害	摂食障害の特徴と治療およびその看護
18	疾患と看護⑤ 人格障害	人格障害(境界性人格障害を中心に)の特徴と治療およびその看護
19	疾患と看護⑥ 物質依存症	物質依存症(アルコール依存症を中心に)の特徴と治療およびその看護

回	講 義 題 目	講 義 内 容
20	疾患と看護⑦ 発達障害、精神遅滞	発達障害と精神発達遅滞の特徴と治療およびその看護
21	疾患と看護⑧ 器質性精神障害	器質性精神障害(認知症、症状精神病など)の特徴と治療およびその看護
22	精神科で行われる治療法①	精神科で行われる精神療法と身体療法、および看護者の役割
23	精神科で行われる治療法②	作業療法、レクリエーション療法、SST、心理教育など
24	精神看護における援助方法①	患者-看護者関係とその展開(ペプロー理論)
25	精神看護における援助方法②	対象の自己決定と自律を促す援助(オレム・アンダーウツのセルフケア理論)
26	〃	〃
27	仮想幻覚体験演習	シミュレーションマシンを用いた幻覚体験演習
28	〃	〃
29	映画鑑賞	映画「カッコーの巣の上で」の鑑賞と解説
30	〃	〃

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]」武井麻子(医学書院)
参 考 書	「新・看護者のための精神保健福祉法Q&A」日本精神科看護技術協会監修(中央法規) 「ペプロー看護論」A.W オトゥール他(医学書院) 「セルフケア概念と看護実践」南裕子他(へるす出版)

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 概 論	単 位 認 定 者	小 笠 原 映 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 13:00 (小笠原研究室)
科 目 の 目 的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。		
学 習 到 達 目 標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。		
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)・授業への参加度(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に目を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	在宅看護の概念1	グループワーク
2	在宅看護の概念2	在宅看護とは 在宅看護の変遷と歴史的背景 在宅看護の社会的背景 在宅医療・介護と制度
3	在宅看護の概念3	在宅看護の目的 自立・自律支援 QOL 向上 病状・病態の予測と予防 個人と家族を対象とする在宅看護 在宅チームケアの意義・目的
4	在宅療養者と家族の支援1 (在宅療養者の理解)	在宅看護の対象者 対象者の生活 在宅看護の成立条件 在宅療養者への看護活動
5	在宅療養者と家族の支援2 (在宅療養者の家族への支援)	家族の機能 看護学における家族 家族のアセスメント 家族の介護負担とその軽減 介護者の健康 レスパイトケア
6	在宅療養を支える看護1 (在宅看護制度の理解、訪問看護ステーションの機能と役割)	在宅看護の提供方法 訪問看護ステーション設置と管理運営 訪問看護サービスの仕組みと提供 訪問看護の記録
7	在宅療養を支える看護2 (在宅看護における倫理的課題)	在宅看護の倫理と基本理念 自己決定支援 対象者の権利擁護 説明責任
8	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版)
参 考 書	「国民衛生の動向」

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 I	単 位 認 定 者	小 笠 原 映 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 13:00 (小笠原研究室)
科 目 の 目 的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 療養者および家族を支援するための在宅看護過程の展開方法を理解する。		
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験(90%)・授業への参加度(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に目を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	在宅看護の仕組み1	社会資源の活用 在宅看護にかかわる法規(介護保険法)
2	在宅看護の仕組み2	介護保険の仕組みと利用 サービス開始までの流れ 介護保険における給付内容
3	在宅看護の仕組み3	介護保険における給付内容 居宅介護サービス 施設介護サービス 地域密着型介護サービス
4	在宅看護の仕組み4	介護保険における給付内容 福祉用具
5	在宅看護の仕組み5	介護支援専門員(ケアマネージャー)の役割
6	在宅看護の仕組み6	在宅看護にかかわる法規(医療保険制度) 難病療養者に対する制度 子どもを対象とする公費負担医療助成 在宅看護にかかわる法規(障害者総合支援法) 市区町村における在宅療養を支援する社会資源
7	在宅看護の仕組み7	
8	在宅看護の仕組み8	
9	多職種連携1	地域包括ケアシステム 関係職種との連携 サービス担当者会議
10	多職種連携2	チームケアの理解 在宅チームケアの意義 看護職同士の連携・協働 ケアマネジメントの概念 ケアマネジメントの過程
11	多職種連携3	在宅チームケアの実際 在宅療養者に対するリハビリテーション
12	生活の中で必要となる安全管理	家屋環境の整備 転倒・転落の防止 誤嚥・窒息の防止 熱傷・凍傷の防止 熱中症の防止 閉じこもりの防止 独居高齢者等の火災予防
13	退院支援・退院調整	入退院に関する患者・家族の意思決定支援 退院支援・退院調整のプロセス 退院調整に関わる職種とその役割 地域連携パスの理解 外来・地域連携部門との看看連携
14	在宅看護の展開	在宅看護過程展開のポイント 在宅看護過程の特徴
15	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子(医学書院) 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子(メディカ出版)
参 考 書	「介護保険制度に関するパンフレット」(1冊 200円程度)(社会保険出版社)

授 業 科 目 名	看 護 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後、昼休み
科 目 の 目 的	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学の各専門領域におけるそれぞれの特色を実践的視点でわかりやすく解説し、学生個々が4年次修了までの学習をイメージできるようにし、学習の動機づけをする。		
学 習 到 達 目 標	1) 看護学の各領域の特色を表現することができる。 2) これから履修する看護学専門科目の学習に興味を持って取り組める。		
関 連 科 目	専門科目群の全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート100%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	基礎看護学の学び入門	基礎看護学の特色と4年間の学習の展望
2	成人看護学の学び入門(慢性期の看護)	成人看護学(慢性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
3	成人看護学の学び入門(急性期の看護)	成人看護学(急性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
4	老年看護学の学び入門	老年看護学の特色と4年間の学習の展望
5	小児看護学の学び入門	小児看護学の特色と4年間の学習の展望
6	母性看護学の学び入門	母性看護学の特色と4年間の学習の展望
7	精神看護学の学び入門	精神看護学の特色と4年間の学習の展望
8	在宅看護論・公衆衛生看護学の学び入門	在宅看護論・公衆衛生看護学の特色と4年間の学習の展望

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし



授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	矢島正栄:月～金曜日 17:00～18:00 中下富子・斉藤玲子:講義の前後
科 目 の 目 的	公衆衛生看護の概念と役割、地域の人々の健康を守る公衆衛生看護活動の方法について理解し、今後の保健師活動について展望する。		
学 習 到 達 目 標	1. 公衆衛生看護の概念と歴史の変遷を説明できる。 2. 公衆衛生看護をめぐる保健医療福祉施策の概要と関係職種について説明できる。 3. 公衆衛生看護の法的基盤を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における倫理的態度を選択できる。 5. 公衆衛生看護の役割、活動の特徴と成立条件を説明できる。 6. 公衆衛生看護の対象と活動の場の特徴を説明できる。 7. 公衆衛生看護活動の方法を説明できる。		
関 連 科 目	教 養 科 目 群: 発 達 ・ 行 動 ・ 心 理 の 各 科 目、 人 と 社 会 ・ 生 活 の 各 科 目 専 門 基 礎 科 目 群: 地 域 科 目 群 の 各 科 目 専 門 科 目 群 の 各 科 目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80% レポート 20%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んで授業に臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生看護の理念と目的	公衆衛生看護とは、公衆衛生と公衆衛生看護、公衆衛生看護と地域看護
2	公衆衛生看護の歴史1	欧米における公衆衛生看護の歴史、日本における公衆衛生看護の歴史1
3	公衆衛生看護の歴史2	日本における公衆衛生看護の歴史2
4	公衆衛生看護活動の原則と成立条件	公衆衛生看護の機能・役割、地域看護活動の原則と成立条件
5	保健師活動と法律、職業倫理	保健師の業務・責任等について定める法令とその内容、保健師に求められる職業倫理
6	公衆衛生看護活動と関係機関・関係職種	地域活動の過程で連携する関係機関・関係職種
7	公衆衛生看護の基本的な概念及び理論	公衆衛生看護に用いられる基本的な概念、理論とその活用
8	公衆衛生看護の対象	個人・家族・集団・地域のとらえ方、人間の発達段階と健康課題、家族の発達段階と健康課題、
9	地域に暮らす人々の健康課題1	現代の日本における思春期、母子、子育てをめぐる健康課題
10	地域に暮らす人々の健康課題2	現代の日本における成人、高齢者をめぐる健康課題
11	地域に暮らす人々の健康課題 3	現代の日本における精神保健、感染症対策、その他の健康課題
12	公衆衛生看護活動の場1	保健所、市町村における保健師の活動
13	公衆衛生看護活動の場2	在宅医療、介護・福祉分野における保健師の活動
14	公衆衛生看護の活動方法1	公衆衛生看護に用いられる技術
15	公衆衛生看護の活動方法2	地区活動の展開
16	まとめ	

回	講義題目	講義内容
1	(学校保健) 学校保健	学校保健の制度:教育関係法規、学校保健の領域
2		児童生徒の現代的健康課題、学校における保健教育
3		学校保健における組織活動:学校保健運営組織、学校保健計画
4		学校における保健管理(1):学校環境衛生
5		学校における保健管理(2):健康観察、健康診断
6		学校における保健管理(3):疾病予防
7		学校における保健管理(4):救急処置、健康相談
8		養護教諭制度の変遷、保健室経営と保健室経営計画
1	(産業保健) 産業保健・看護の発展経緯と重点課題	産業保健・看護の現状
2	の変遷	産業保健を取り巻く環境の変化
3	産業保健・看護における主な健康課題と対策	産業保健に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と、今日のヘルスニーズ
4	産業保健・看護の制度とシステム	労働安全衛生法に関する法体系 労働衛生管理の基本(作業環境管理・作業管理・健康管理・衛生教育) 産業保健組織とスタッフの役割
5		健康支援を行う関連機関
6	特定健診・特定保健指導の制度と実際	健康保険組合の役割と特定保健指導の取り組みについて 特定保健指導の目的・実際・評価・改善

教科書	「標準保健師講座1 地域看護学概論」奥山則子 他(医学書院) 「国民衛生の動向 2010/2011」(財団法人厚生統計協会) (学校保健) 学校保健・安全実務委員会:「新訂版 学校保健実務必携 第2次改訂版 第一法規 平成21年 (産業保健) 地域看護活動論① メディカルフレンド社 金川克子 平成 22 年版働く人の健康 全国労働衛生団体連合会 国民衛生の動向(最新のもの)
参考書	(産業保健) 看護職のための産業保健入門 保健文化社 森 晃爾

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 看 護 学 I	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	前期:月 16:10～17:00 後期:月～水、金 16:10～17:00
科 目 の 目 的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康相談/健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。</li> <li>2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。</li> <li>3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育実施のプロセスと方法がわかる。</li> <li>4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。</li> </ol>		
関 連 科 目	社会福祉・社会保障制度論、歯科保健、健康管理論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(60%)、演習/レポート(40%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回講義内容について教科書を事前に読んでおくこと。健康相談/家庭訪問演習を実施する前に、対象者の事前情報から把握できる健康課題や解決/改善方法について調べ理解しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	導入	オリエンテーション、地域看護の支援技術の特性
2	健康相談1	健康相談の意義と目的、健康相談の対象
3	健康相談2	健康相談の技術
4	健康相談3	健康相談の実施方法
5	健康相談4	健康相談の実施方法(演習)
6	健康相談5	健康相談の実施方法(演習)
7	健康診査1	健康診査の意義、目的、対象、方法
8	健康診査2	母子保健領域における健康診査1
9	健康診査3	母子保健領域における健康診査2
10	健康診査4	成人・老人保健領域における健康診査
11	健康教育1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論
12	健康教育2	健康教育の対象・方法
13	健康教育3	健康教育の展開過程1
14	健康教育4	健康教育の展開過程2
15	健康教育5	健康教育計画と指導案1
16	健康教育6	健康教育計画と指導案2
17	健康教育7	健康教育の評価1
18	健康教育8	健康教育の評価2
19	家族保健指導	家族の発達課題、家族の持つ保健機能 家族の問題把握と診断、家族支援

回	講義題目	講義内容
20	保健指導計画	保健指導計画ならびに実施計画の立案(演習)
21	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象
22	家庭訪問 2	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導
23	家庭訪問 3	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法
24	家庭訪問 4	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方
25	家庭訪問 5	家庭訪問計画作成(演習)
26	家庭訪問 6	家庭訪問場面(演習)
27	家庭訪問 7	家庭訪問場面(演習)
28	地区組織活動 1	地区組織活動の意義と目的
29	地区組織活動 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用
30	地区組織活動 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方

教科書	「標準保健師講座 2 地域看護技術」(医学書院)
参考書	特になし

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者との関わりが理解できることを目的とする		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の特徴、機能、役割について知る</li> <li>2. 保健医療チームにおける看護師の役割について理解する</li> <li>3. 病棟の特徴について知る</li> <li>4. 入院患者の療養生活について理解する</li> <li>5. 入院患者の身体的、精神的、社会的側面について考察する</li> <li>6. 看護活動の場面を通し、看護の実際を知る</li> <li>7. 目標 1~6 を通し、看護学の学習上の学びや課題を明らかにする</li> </ol>		
関 連 科 目	看護学概論 I・II の統合と、2 年次以降の看護学学習の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C 以上の評価となる		
準 備 学 習 の 内 容	事前課題の実施		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う
	病院実習	病院施設内の見学実習を中心に、病棟看護師と行動をともにしながら看護活動の実際や入院患者の療養生活の把握、またコミュニケーションを通し患者の入院生活に関する反応を理解する
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについてカンファレンスおよびレポート作成を行う

教 科 書	『ナースング・グラフィカ®基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他(編)(メディカ出版) 基礎看護学実習 I 実習要項
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 2 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12:10 ~ 12:50
科 目 の 目 的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。		
関 連 科 目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。 看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅱ、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。 全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。		
準 備 学 習 の 内 容	1. 看護援助学演習Ⅰで学習した技術の復習 2. 看護過程の復習		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション  病院実習  学内合同カンファレンス	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。  病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。  実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。

教 科 書	基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項
参 考 書	特になし